

障がい福祉についての意識調査
(18歳から64歳の障がい者)

【結果報告書】

令和2年9月

芽室町

I 調査の概要

1 調査の目的

第6期芽室町障がい者福祉計画の策定を行うにあたり、現在のニーズを把握し、今後の支援体制のあり方を検討するため調査を実施しました。

2 調査概要

■調査方法

調査票によるアンケート調査。郵送配布・郵送回収

■調査期間

令和2年8月14日（金）～令和2年8月28日（金）

■調査対象者

18歳から64歳で、障がい者手帳をお持ちの方もしくは障がい福祉サービスを利用されている方

	配布数	回答数	回答率
今回 (令和2年度)	349人	140人	40.1%
前回 (平成29年度)	331人	186人	56.2%

3 報告書の見方

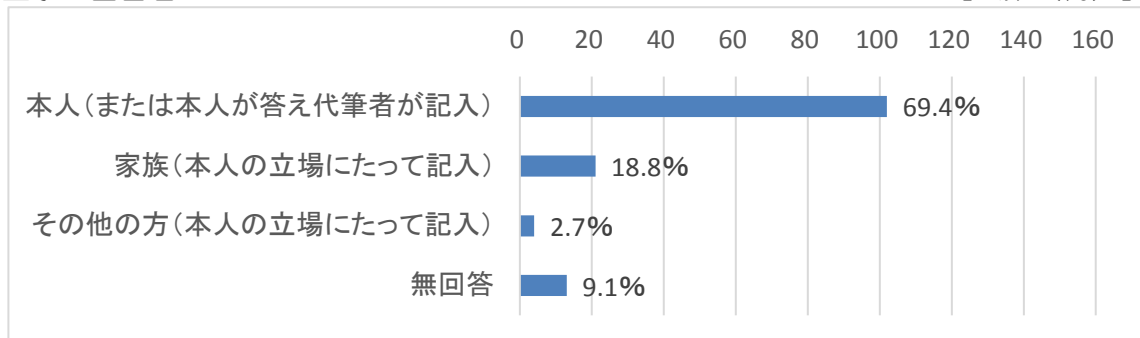
- 回答結果の割合「%」は回答数に対して、それぞれの割合を小数点以下第2位で四捨五入しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合があります。
- 「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本文中の設問や選択肢は簡略化している場合があります。
- 棒グラフで、ひとつの回答項目に対し2段で示されているものは、上段が今回の結果、下段が前回（18歳から64歳のみ抽出）の結果を示しています。

Ⅱ 調査結果（一般）

基礎的事項

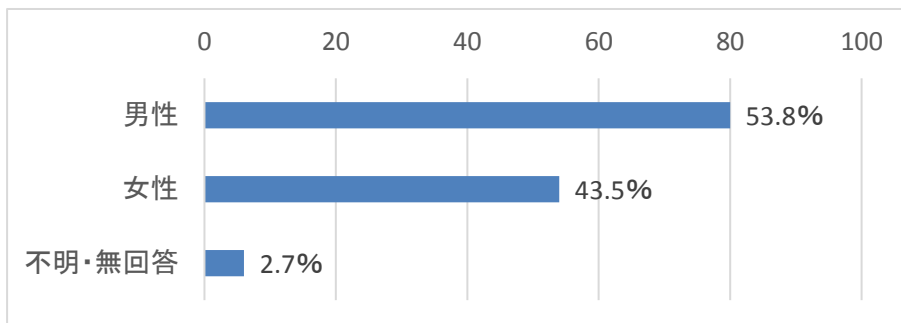
調査票の回答者

【人数（％）】



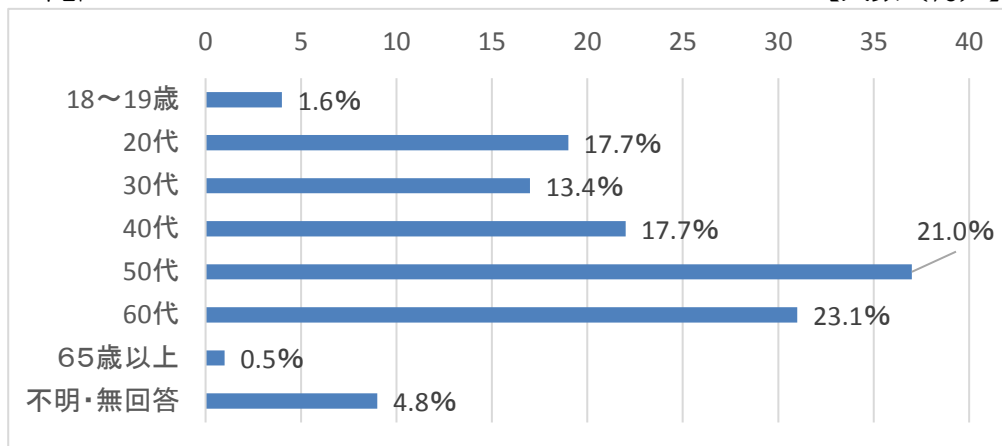
1 性別

【人数（％）】

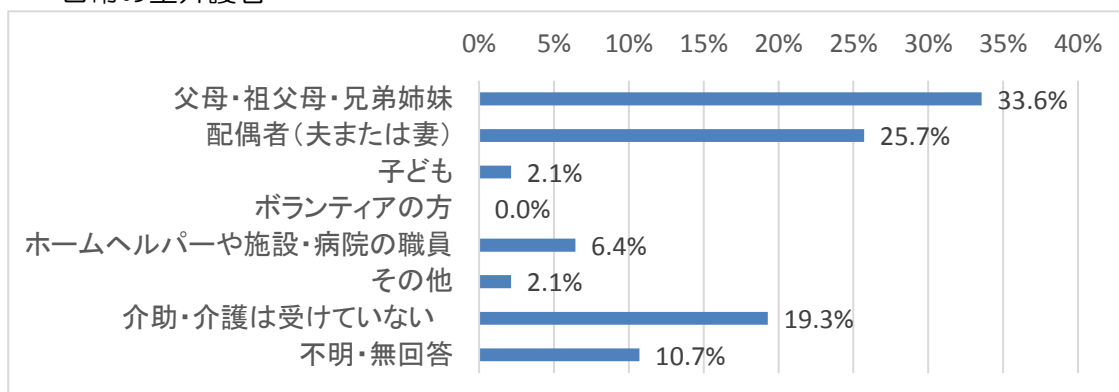


2 年齢

【人数（％）】

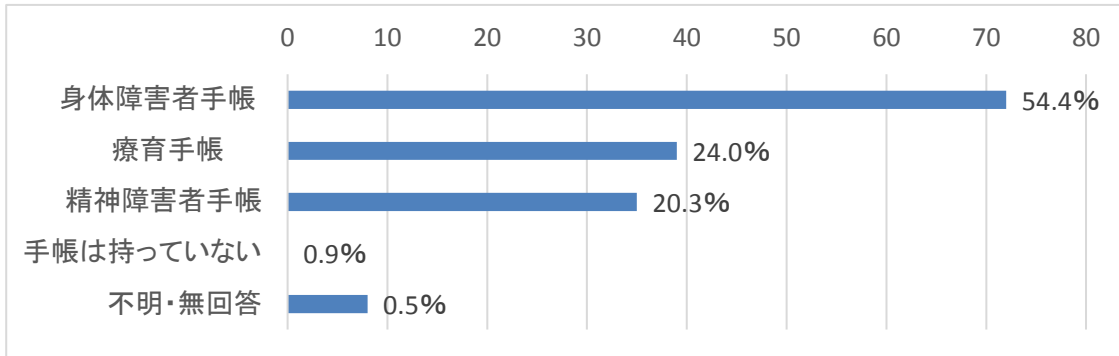


3 日常の主介護者



4 障害者手帳の所持状況（複数回答）

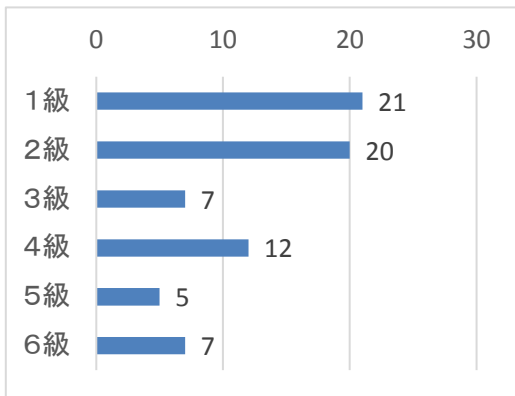
【人数（％）】



■身体障害者手帳

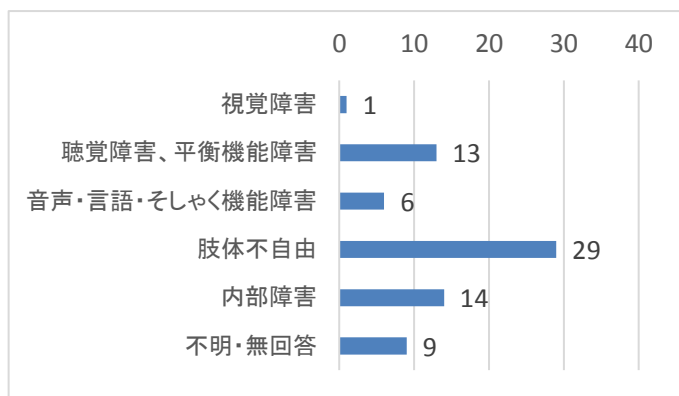
総合等級（72人）

【人数】



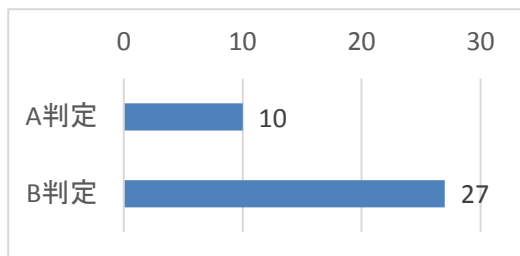
障がいの種類

【人数】



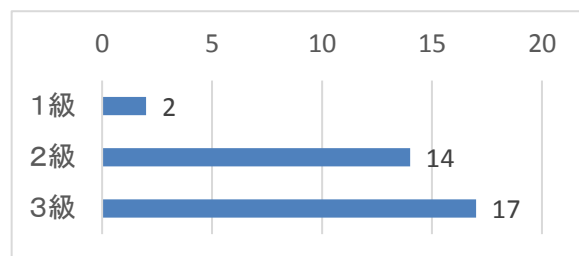
■療育手帳（37人）

【人数】



■精神障害者保健福祉手帳（33人）

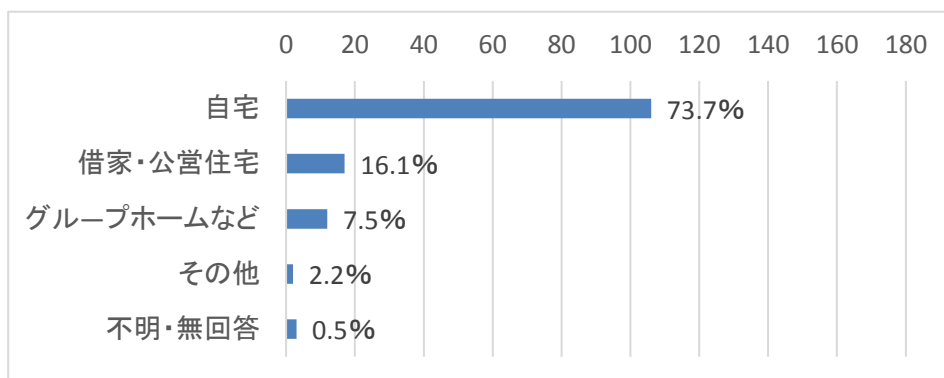
【人数】



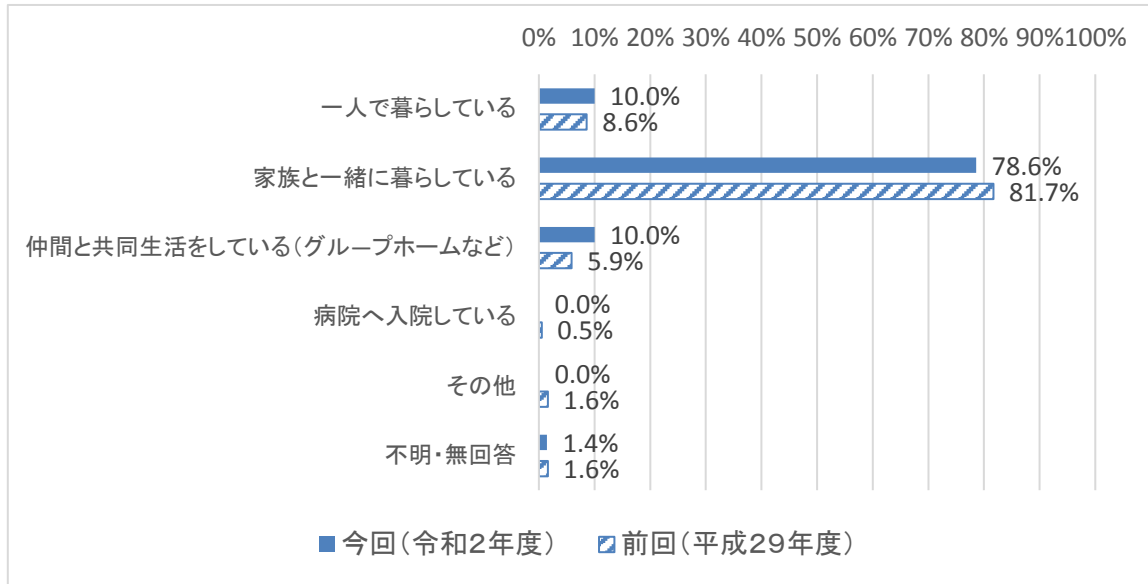
住まいや暮らしについて

5 どこで生活していますか。

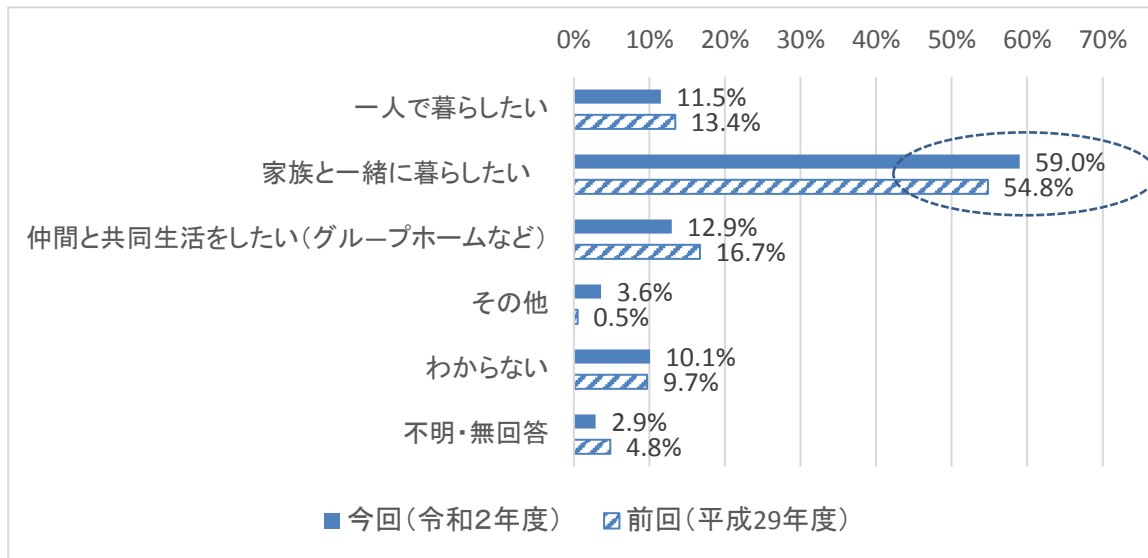
【人数（％）】



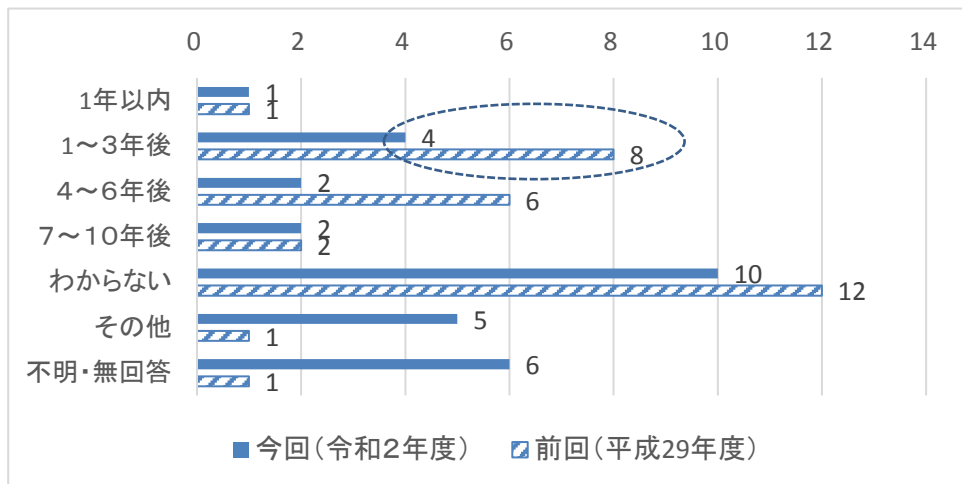
6 どのように暮らしていますか。 【%（人数）】



7 今後、どのように暮らしたいですか。 【%（人数）】



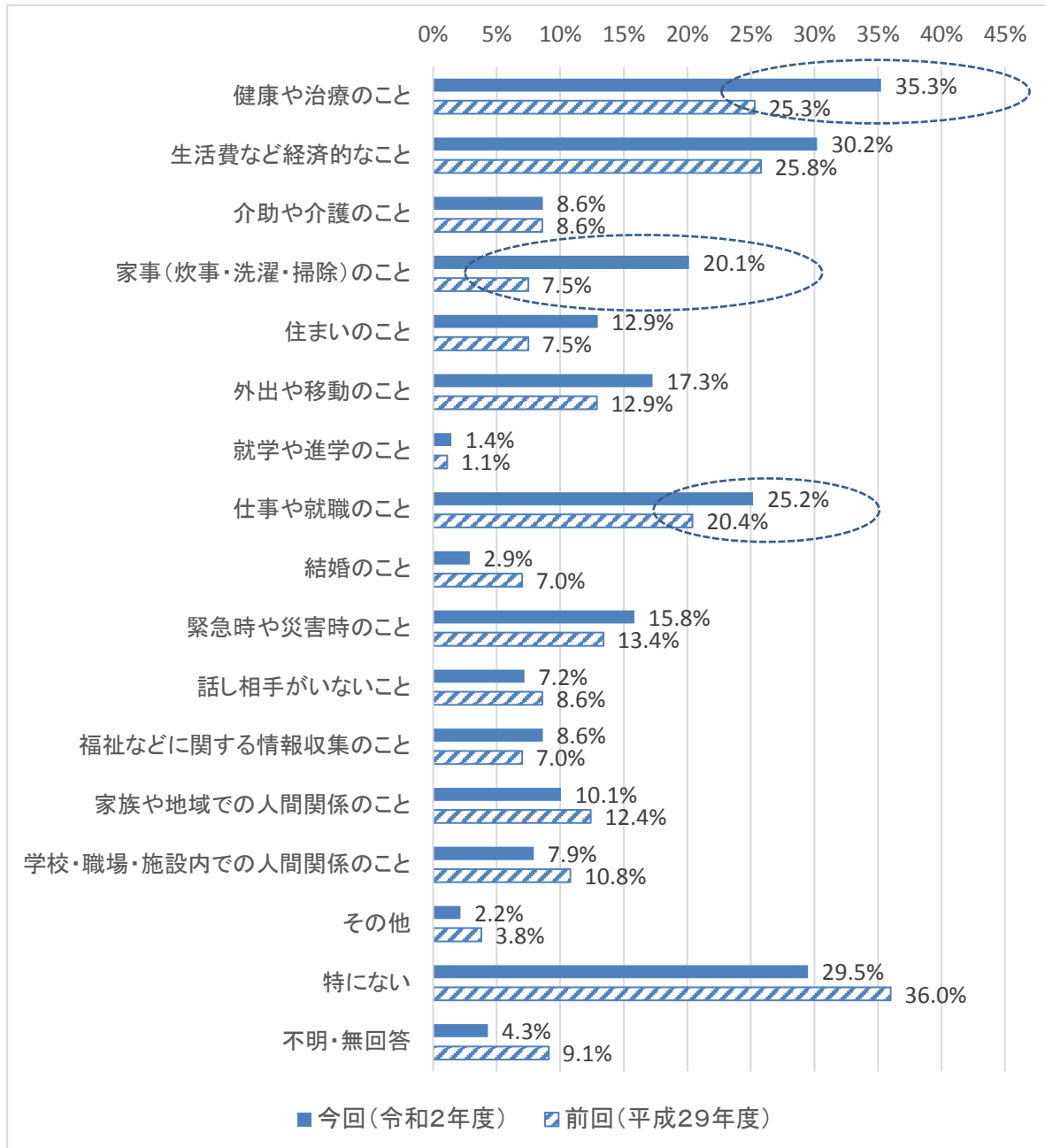
8 グループホームなどで生活する場合、いつごろと考えていますか。
 (7で「仲間と共同生活をしたい(グループホームなど)」と回答した方のみ)



前回（平成29年度）と比較して「家族と一緒に暮らしたい」と答えた方の割合が増えています。「仲間と共同生活をしたい（グループホームなど）」と答えた方の数は18人となり、グループホームの需要は引き続きある状況です。

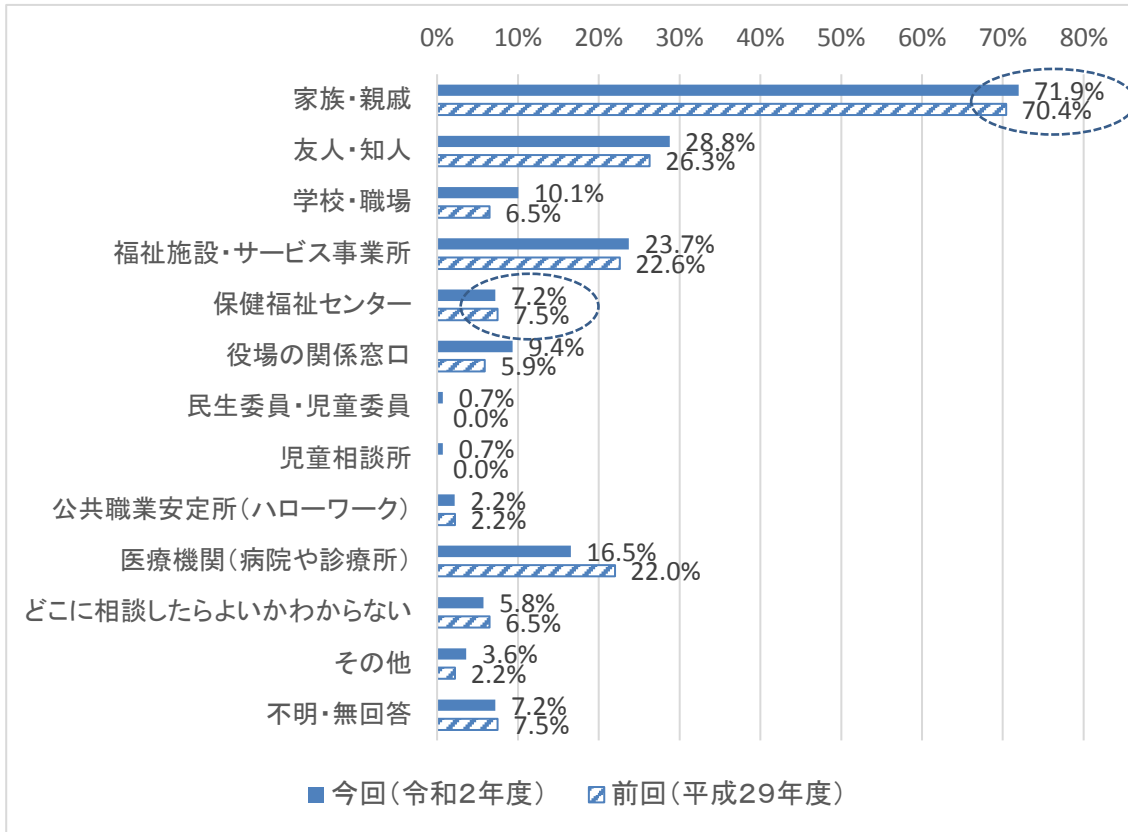
相談・情報提供・コミュニケーションについて

9 現在悩んでいることや相談したいことがありますか。（複数回答）【%】



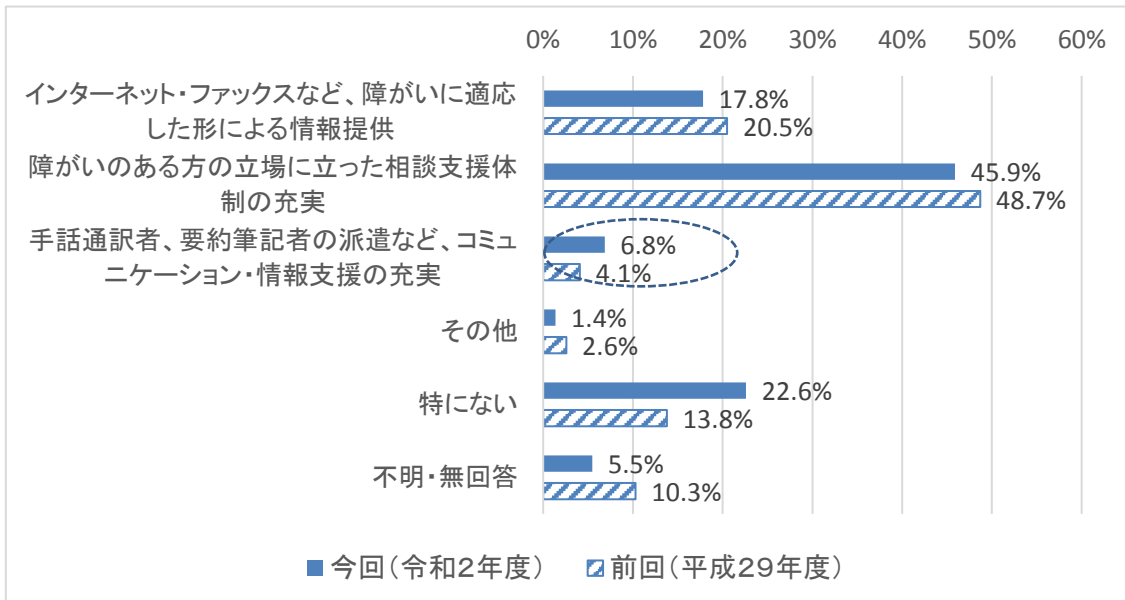
「健康や治療のこと」、「仕事や就職のこと」が前回同様高くなっています。前回に比べて「家事（炊事、洗濯、掃除）のこと」の割合が高くなっており、生活場所や自宅で生活している場合の、ヘルパーによるサービス支援などのニーズがあることが伺えます。

10 悩んでいることを相談する相手は誰（どこ）ですか。（複数回答）【%】



相談する相手は「家族・親戚」が最も高く、前回調査と同様の傾向です。「保健福祉センター」の割合は前回同様低い傾向にあり、相談窓口としての周知が課題となります。

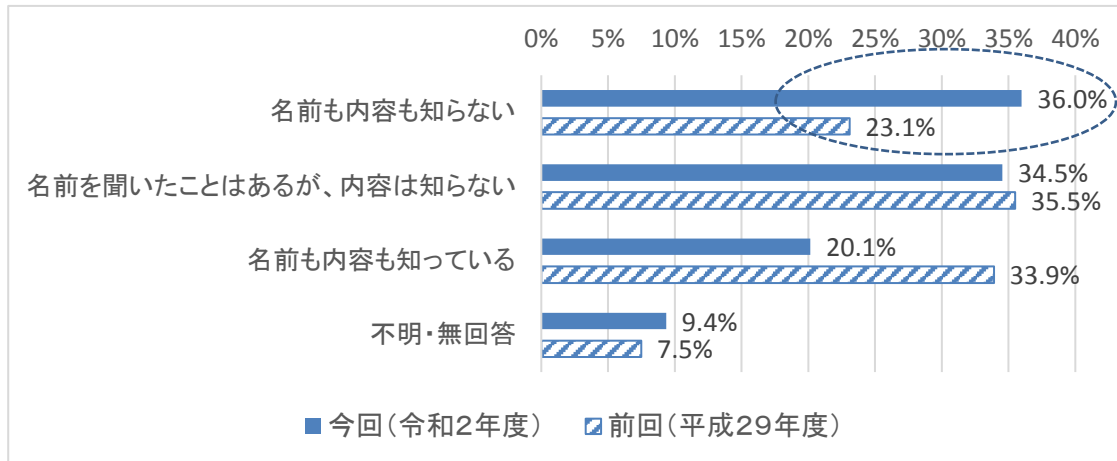
11 障がいのある方の情報収集・コミュニケーションについて、どのようなことが最も必要だと思いますか。【%】



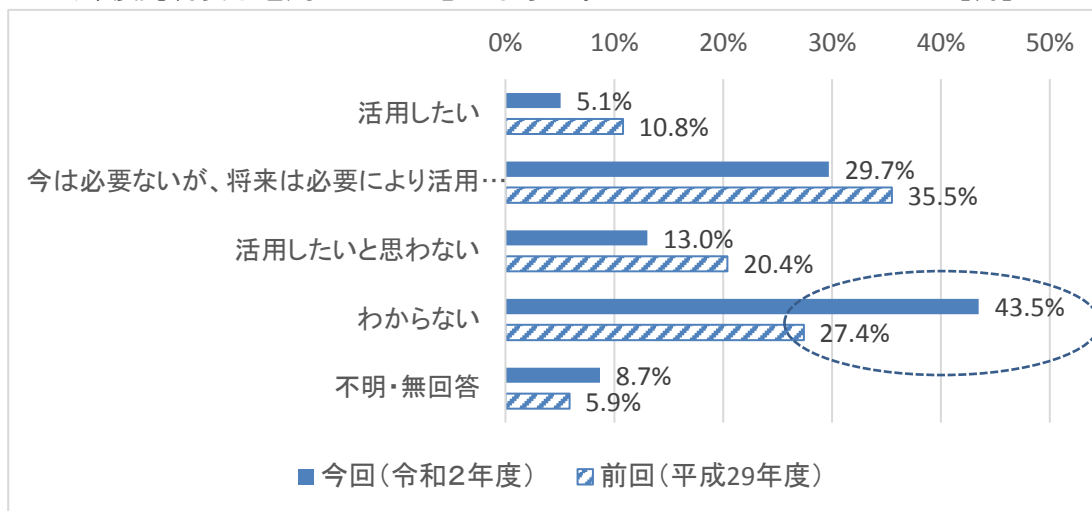
「障がいのある方の立場に立った相談支援体制の充実」が最も多いのは前回同様ですが、「手話通訳者、要約筆記者の派遣など」の割合が増加しています。現在も手話通訳者の派遣を行っていますが、様々なイベントなどを開催するときには、手話通訳者を派遣できる体制を確保することが重要です。

権利擁護について

12 成年後見制度を知っていますか。 【%】

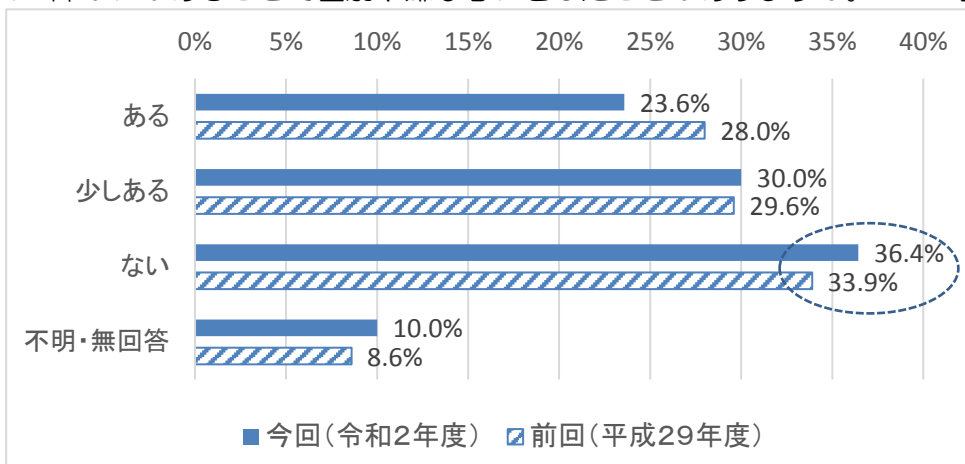


13 成年後見制度を活用したいと思いますか。 【%】

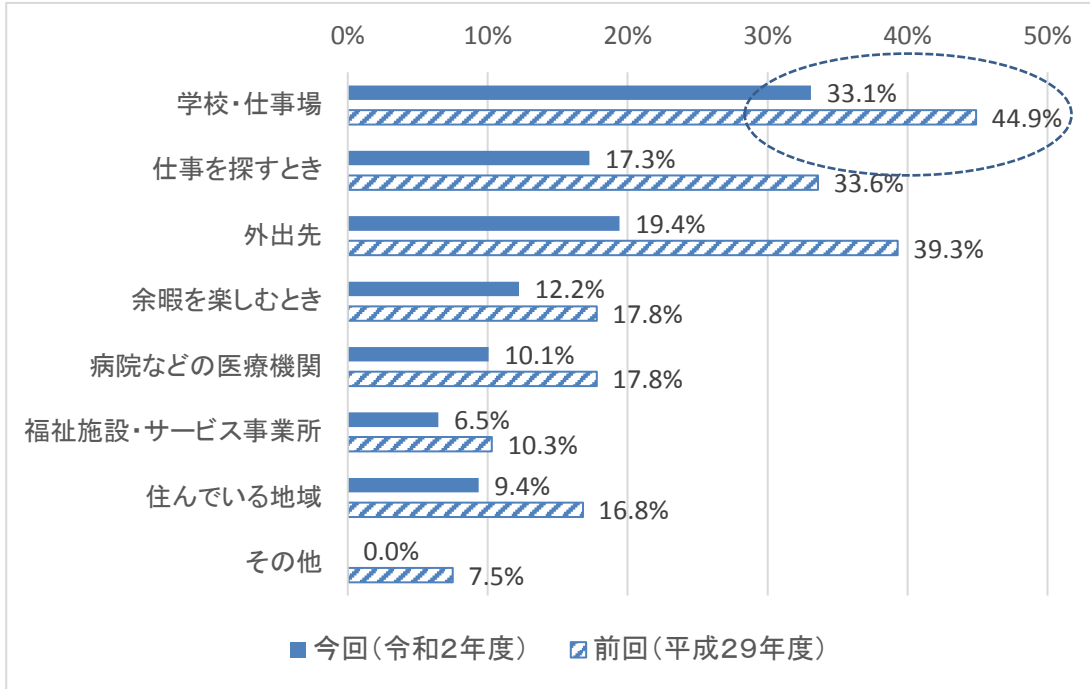


成年後見制度については、前回よりも「名前も内容も知らない」割合が高くなっており、制度の活用に関しては「わからない」という回答が多くなっています。周知が不十分な状況であり「芽室町成年後見支援センター」と連携して対応が必要です。

14 障がいがあることで差別や嫌な思いをしたことがありますか。 【%】

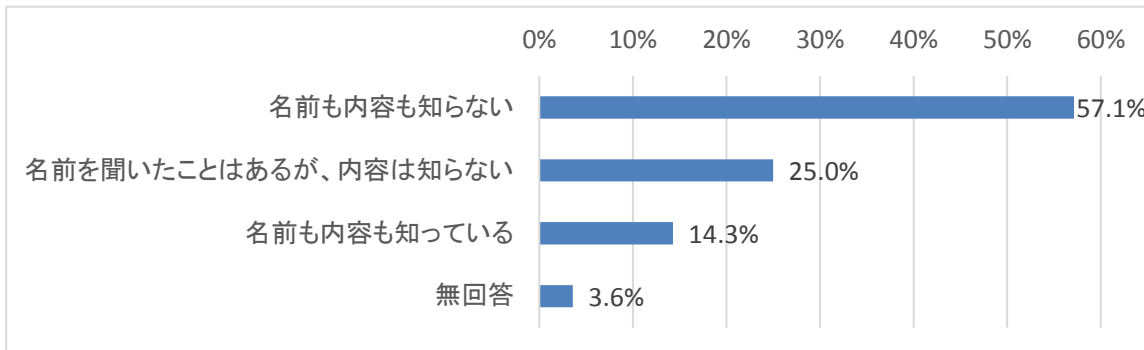


15 それはどのような場所ですか。(14で「ある」「少しある」と回答した方のみ【%】



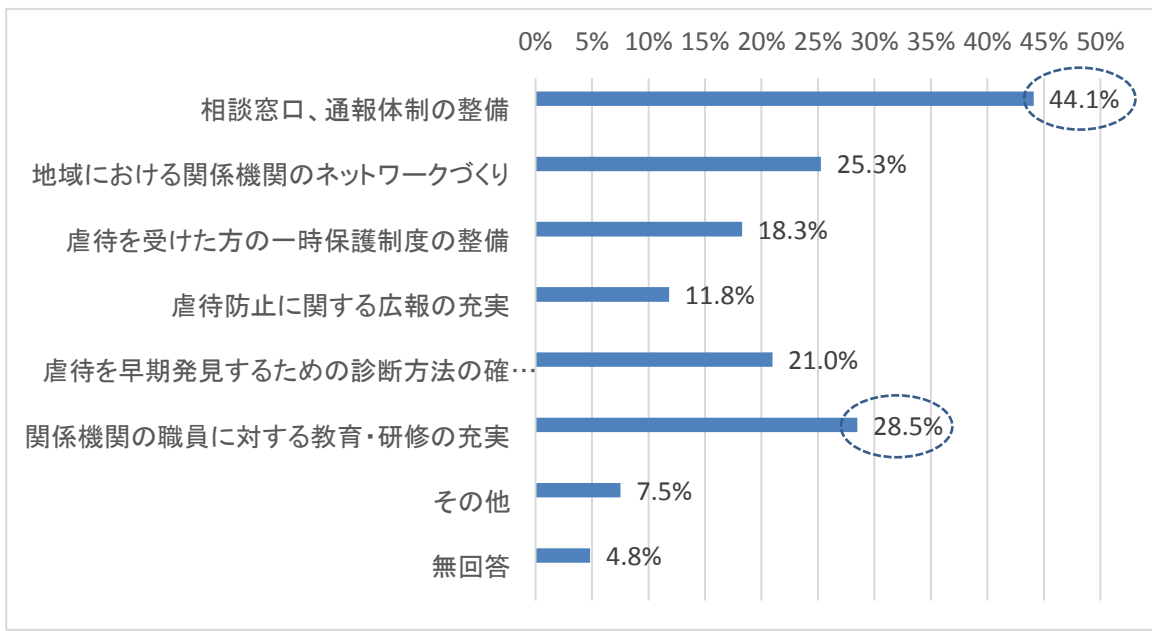
差別や嫌な思いをしたことがある方の割合は、前回と比較して減っています。嫌な思いをした場所は、「学校・仕事場」が高い傾向となっています。

16 障害者差別解消法を知っていましたか。【%】



障害者差別解消法について、これまで広報誌に「誰もが笑顔でくらせるめむろをめざして」という内容で周知を図ってきましたが、「名前も内容も知らない」という方が約半数を超える状況となっており、講演会の開催などより一層の普及啓発が必要であると考えます。

17 障がい者に対する差別や嫌がらせ、暴力をなくすためにはどのようなことが最も必要だと思いますか。（複数回答：3つまで） 【%】

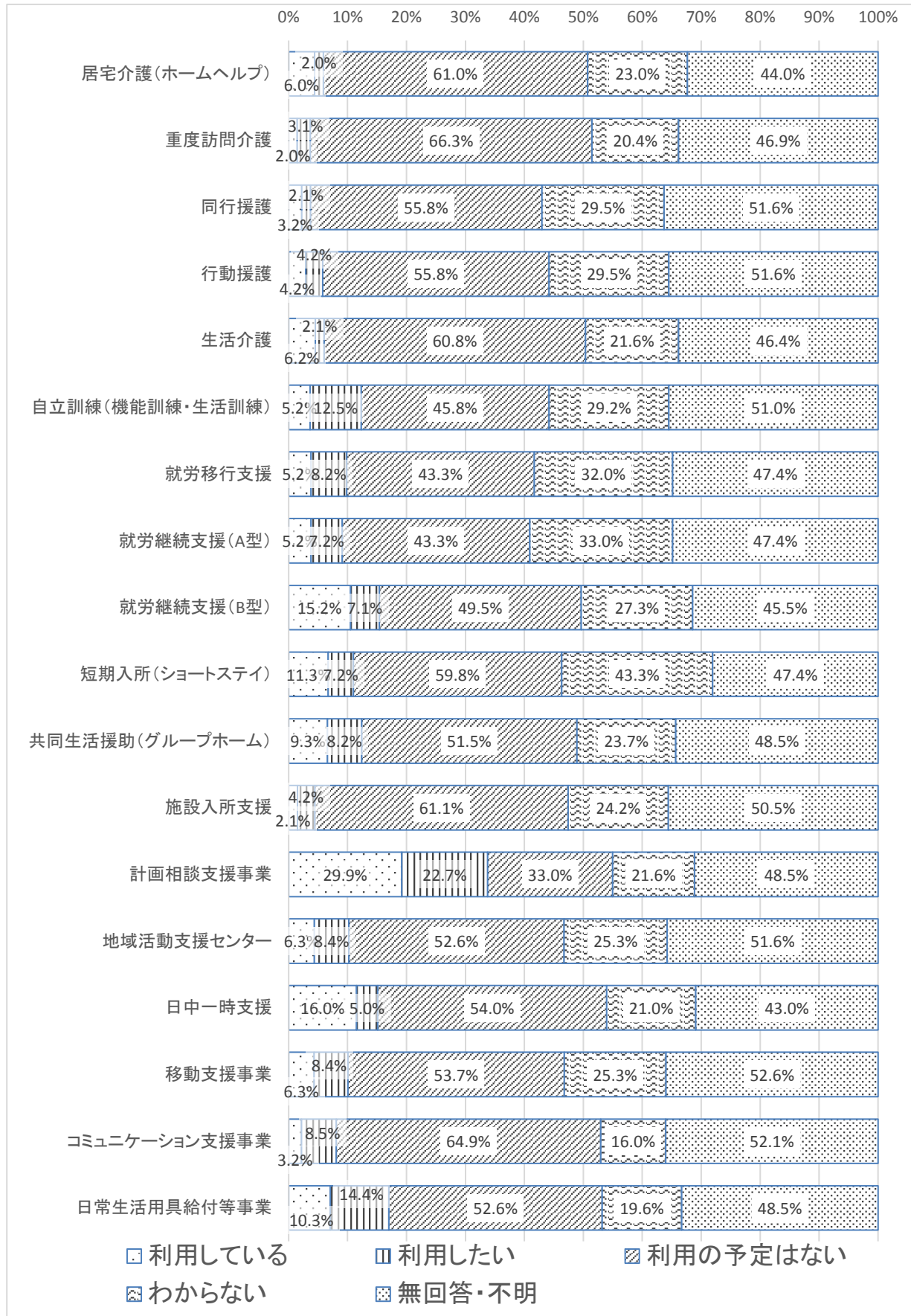


その他： 長く放置されてきたのでわからない。この国では期待もしていない。

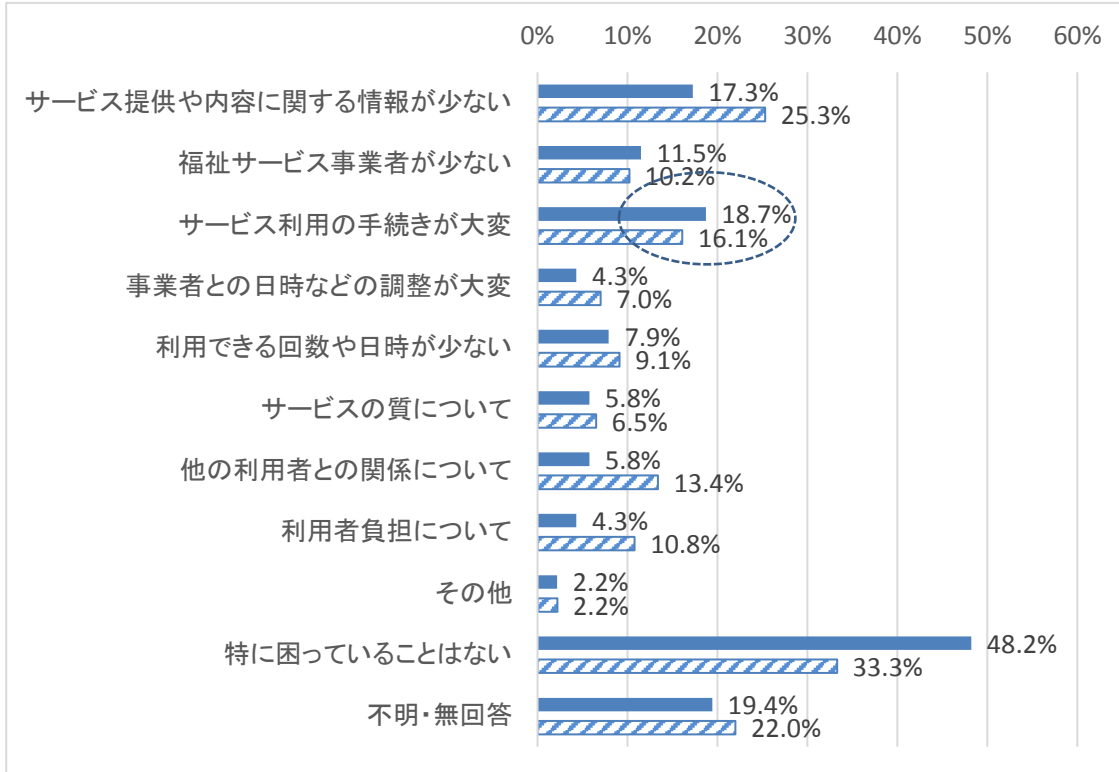
前回調査と同様の傾向を示しており、「相談窓口、通報体制の整備」とともに「関係機関の職員に対する教育・研修の充実」の割合が高くなっています。

福祉サービスなどについて

18 現在利用しているサービス及び今後利用したいサービスは何ですか。 【%】



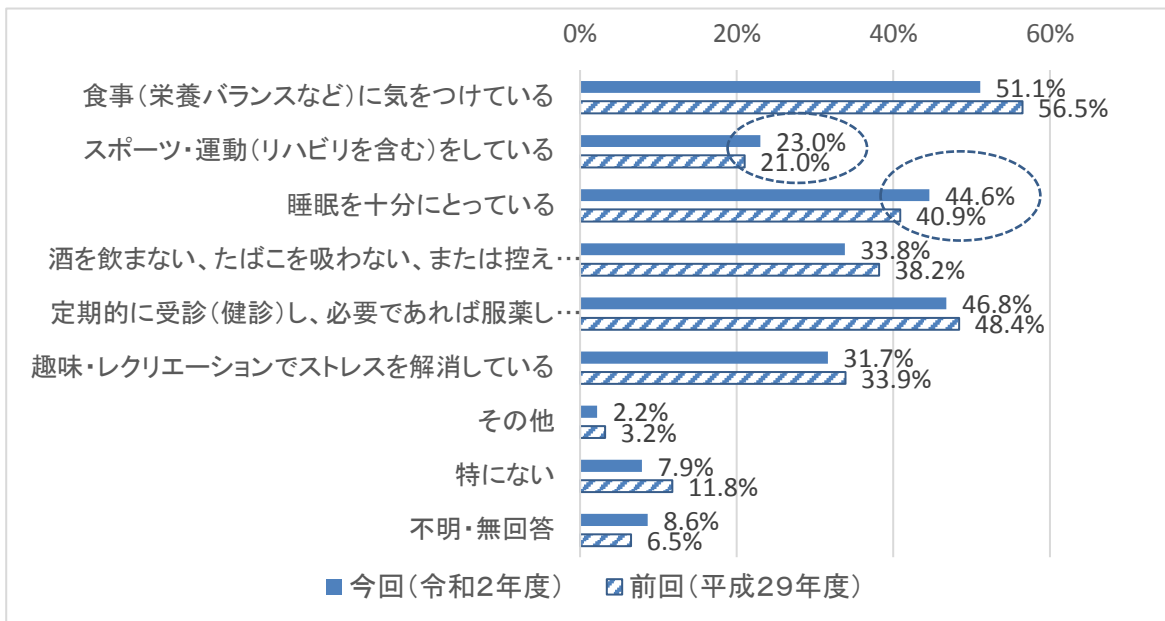
19 福祉サービスを利用するうえで、困っていることは何ですか。（複数回答） 【%】



サービスの利用状況及び利用意向については「計画相談支援事業所」の割合が増加しており、また「利用したい」という割合も高くなっていることから、計画相談支援事業所へのニーズが高まっているといえます。そして、共同生活援助（グループホーム）を利用したいという割合は前回とほぼ同様で、グループホームのニーズも変わらずある状況です。

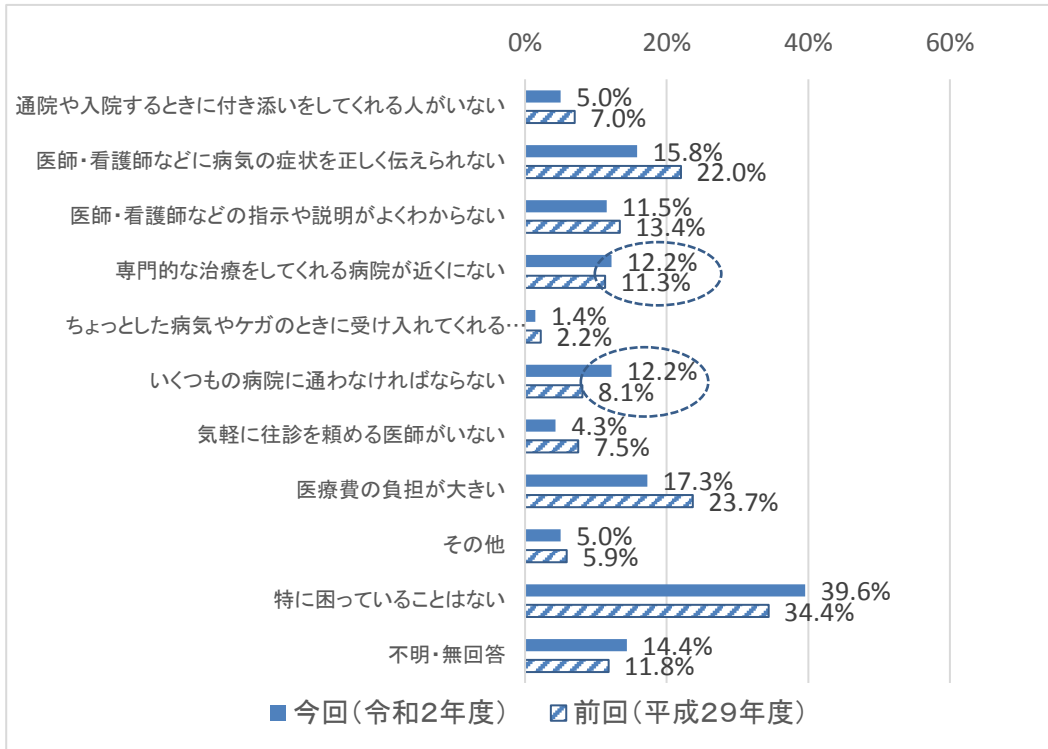
保健・医療について

20 体調を維持するために気を配っていることはありますか。（複数回答） 【%】



その他：喫煙は精神科でやめないで下さいと言われていた。

21 医療を受けるうえで、困っていることはありますか。（複数回答）【%】



その他：午前中にしか受け入れてくれない。移動が大変。

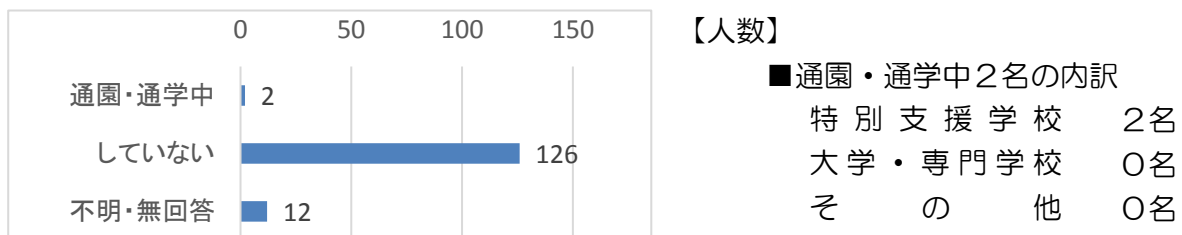
補聴器を入れていますが、聞き取れないことがあり、何かあれば「こうだよ！」と書いてほしいです。

スポーツ、運動をしたり、睡眠を十分にとることで健康に気を配っている方が多い状況です。「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」、「いくつもの病院に通わなければならない」という割合が高くなってきています。総合的な相談ができる医療機関や、多数の医療機関をかける負担を軽減する支援のニーズが高くなっていると考えられます。

教育・就学について

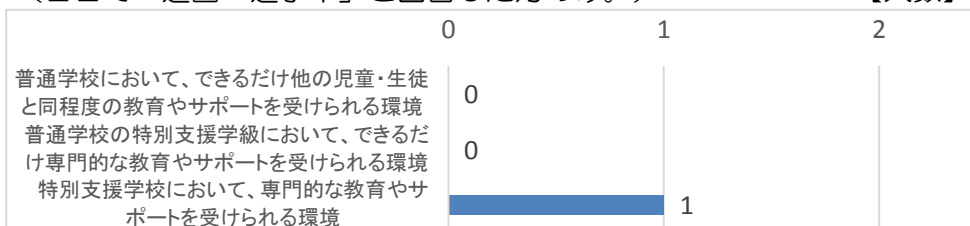
22 現在、通園・通学をしていますか。

23 通園・通学しているところはどこですか。（22で「通園・通学中」と回答した方のみ）



24 支援が必要な児童・生徒の就学環境として望ましいと思うのは、次のどれですか。

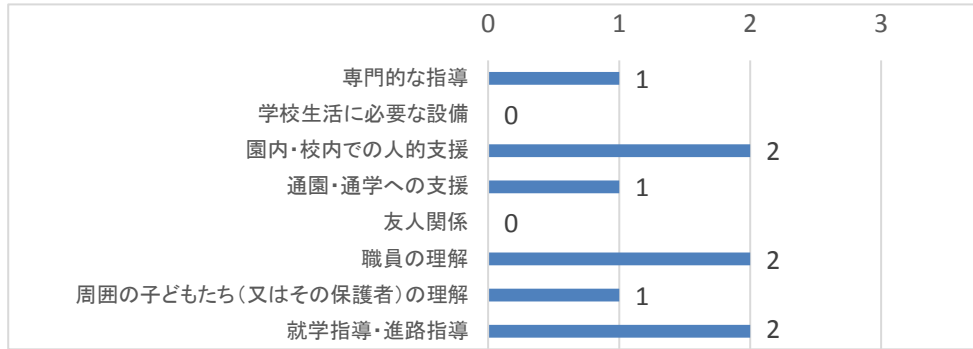
（22で「通園・通学中」と回答した方のみ。） 【人数】



※ 残り1名は「わからない」と回答

25 学校・園等での生活を送るうえで、さらに充実が必要だと思うのは、次のどれですか。

(22で「通園・通学中」と回答した方のみ。複数回答。) 【人数】



26 学校教育終了後の社会参加に関し、どのような福祉施策を望みますか。

(24で「通園・通学中」と回答した方のみ。複数回答。) 【人数】

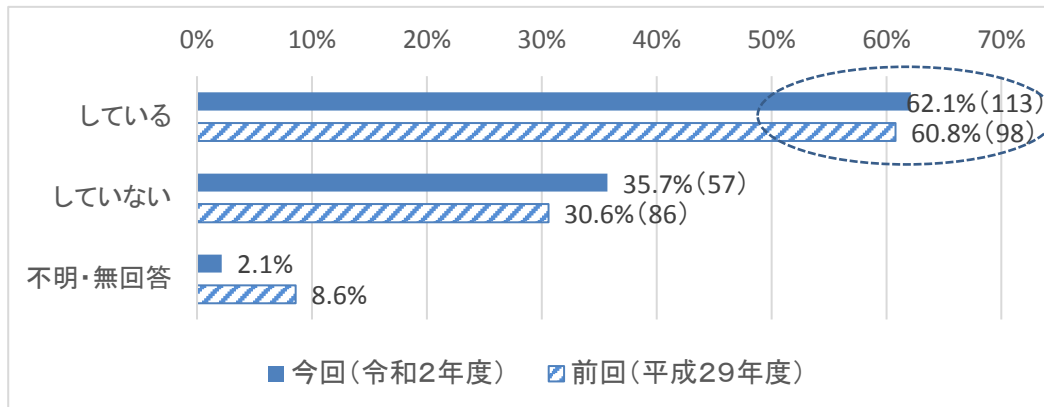


対象者が18歳～64歳のため、就学している方は少数でした。(障がい児を対象とした調査で同じ項目があります)

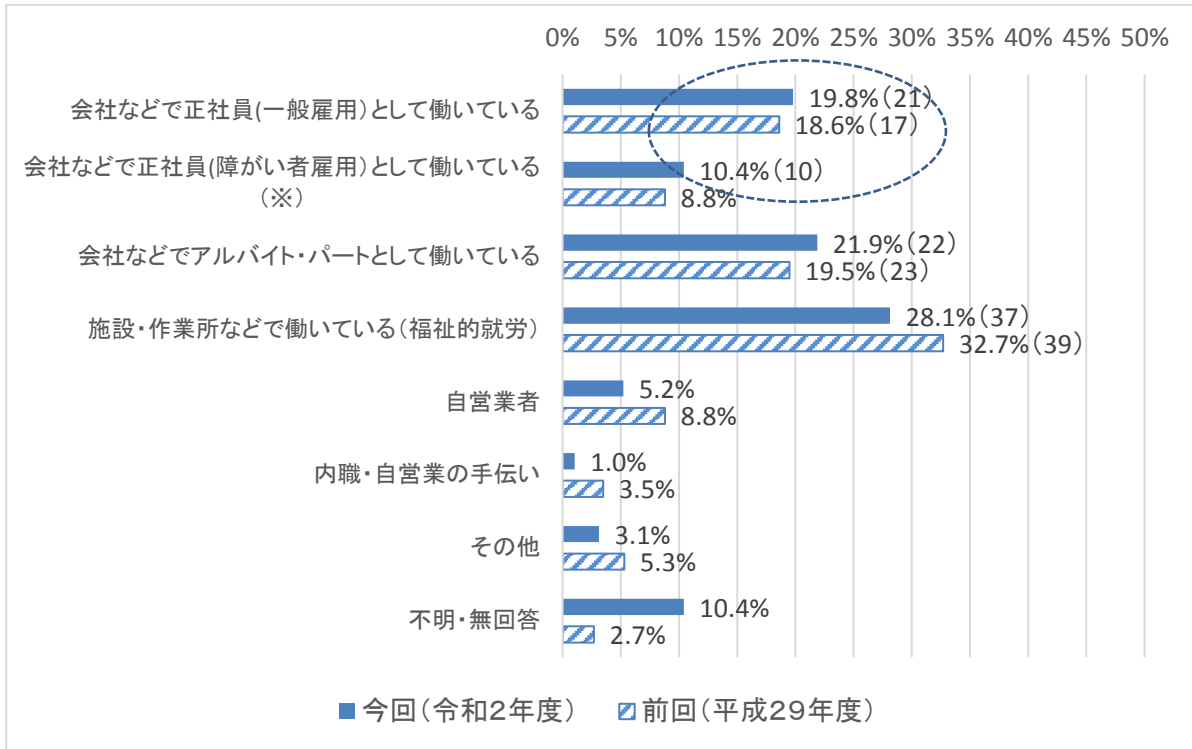
雇用・就労について

27 現在、仕事をしていますか。

【%(人数)】

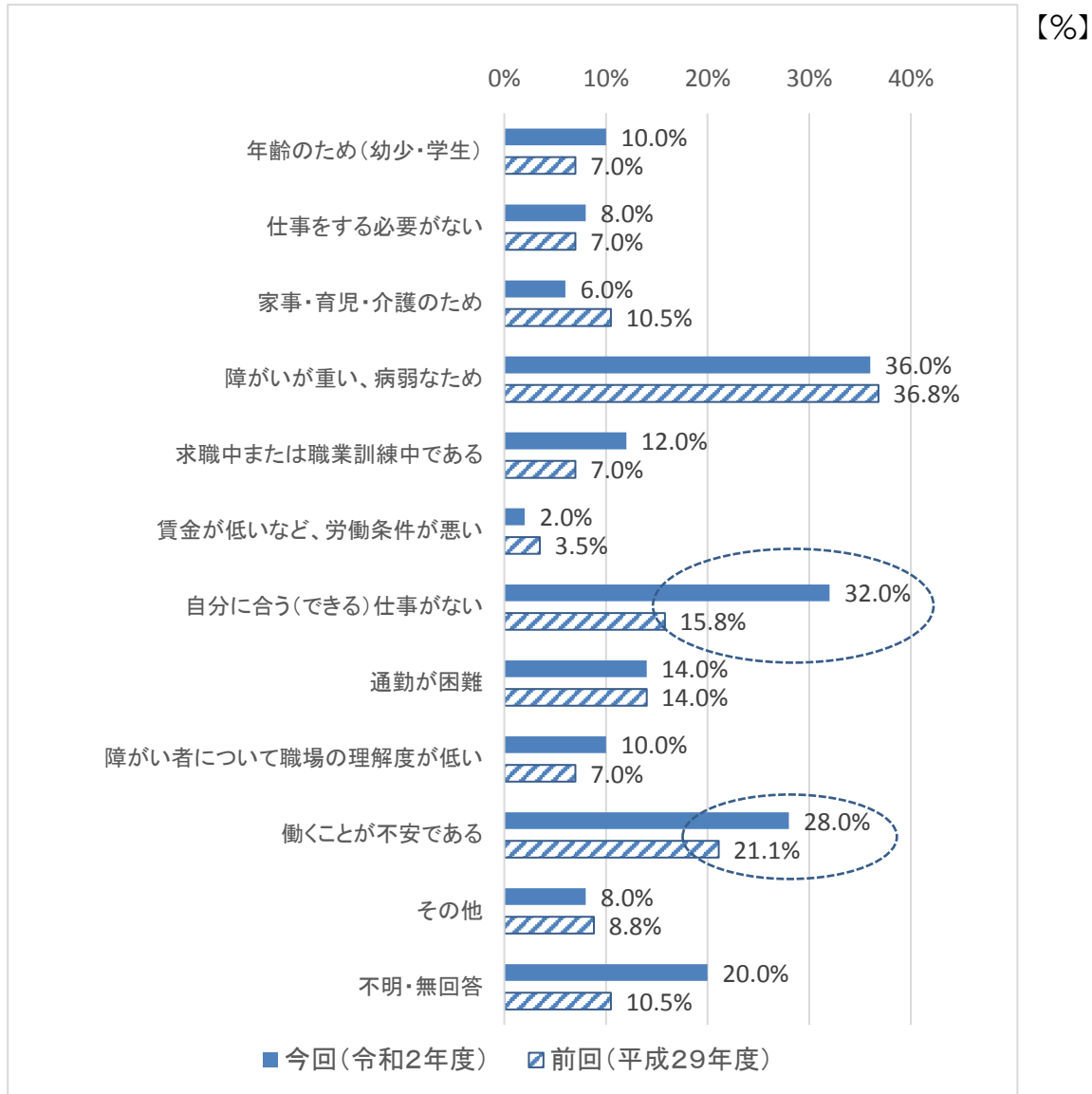


28 現在どこで働いていますか。(27で「している」と回答した方のみ。【% (人数)】)



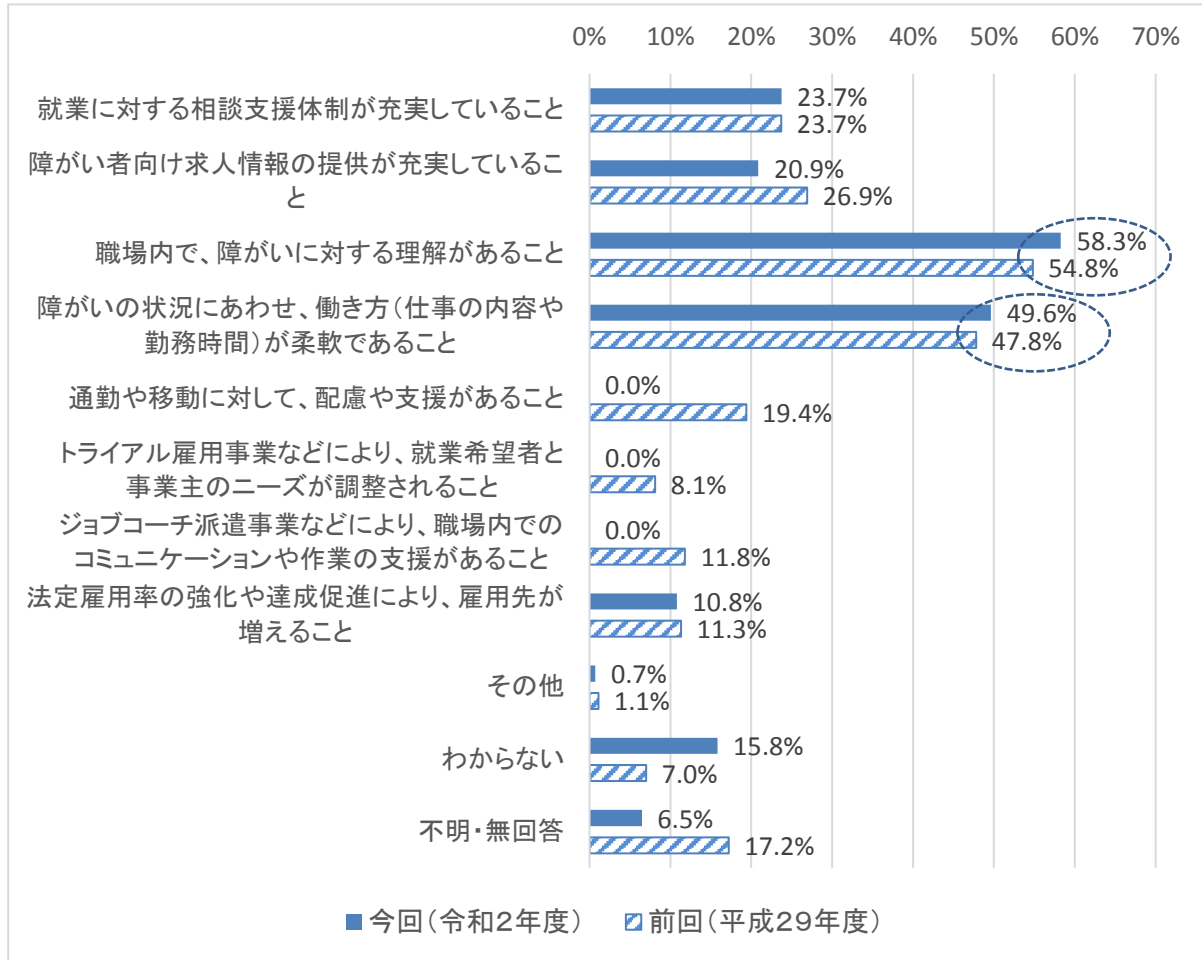
仕事をしている方の人数、割合とも前回調査より増加しています。その内訳としては「会社などで正社員（一般雇用）として働いている」は前回同様で、「会社などでアルバイト・パートとして働いている」という割合がやや増加しております。社会情勢の変化により、多種多様な雇用形態が創設されていることも理由の一つとして考えられます。

29 働いていない理由は何ですか。(27で「していない」と回答した方のみ。複数回答。)



「障がい重い、病弱なため」「働きたいけれど不安がある」が前回同様高くなっておりませんが、「自分に合う仕事がない」という割合が増加しています。当事者の方が、自分に合った仕事を見つけられるような機会の提供や、様々な仕事を提供していただくためにもさらなる企業開拓が重要になってくると考えます。

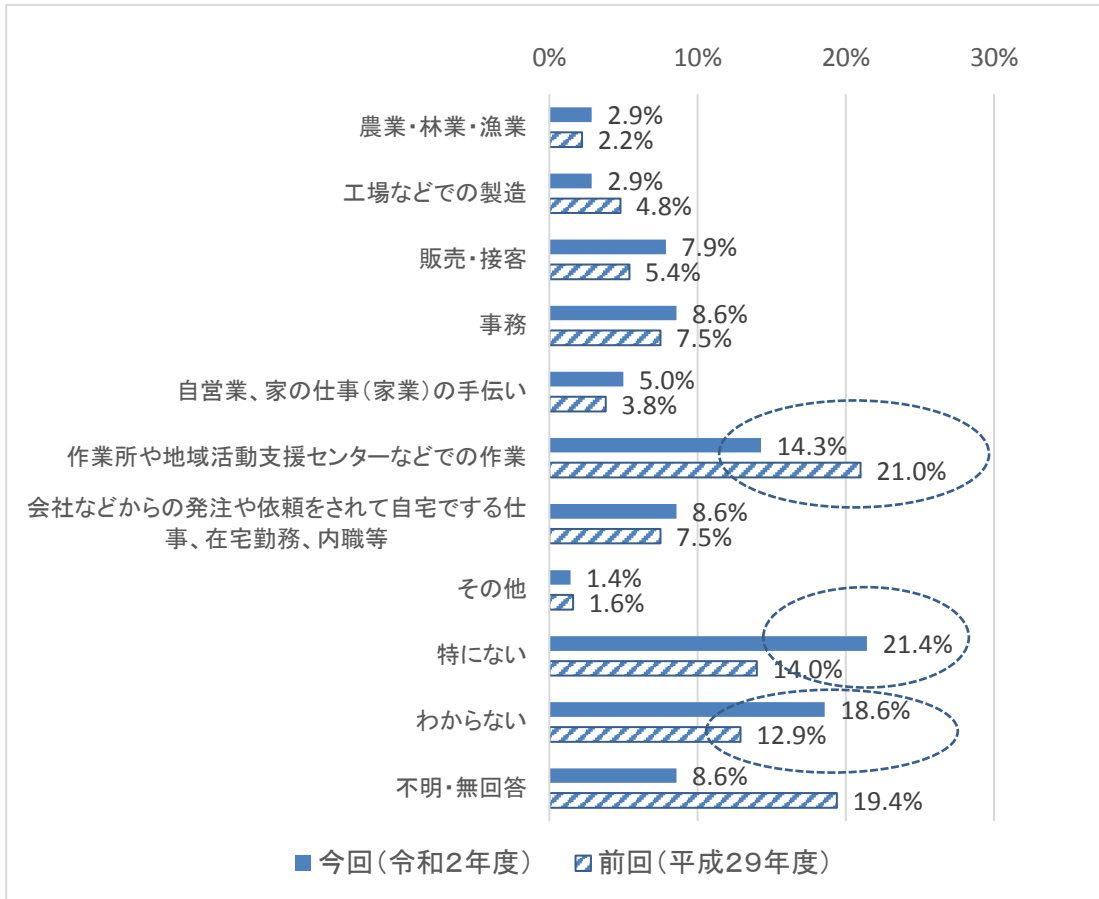
30 障がいのある方が会社などで就労するにあたり、どのような配慮が必要だと思いますか。
 (複数回答) 【%】



その他：全てにおいて分かっている職員の確保。システムや制度「この課じゃないとわからない」ということがないように。新しいシステムができれば通知してほしい。知らない(トライアル雇用事業、ジョブコーチ派遣事業)。

「職場内で、障がい者に対する理解があること」「障がいの状況にあわせ、働き方(仕事の内容や勤務時間)が柔軟であること」の割合が高く、前回調査と同様の傾向です。

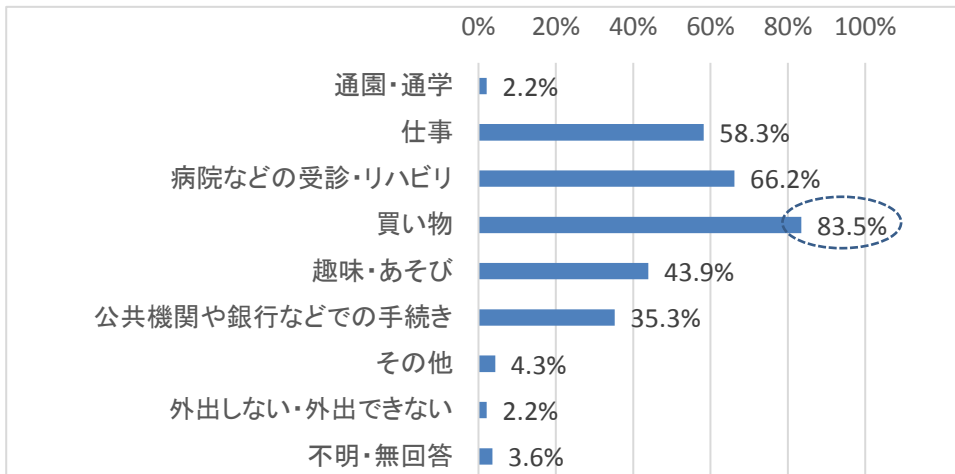
31 最も希望する職業形態は次のうちどれですか。 【%】



前回より、「作業所や地域活動支援センターなどでの作業」の割合が低くなっており、一般就労へのニーズが高まっていることがうかがえます。その他は「特にない」「わからない」が多く、職種よりもご本人に合った職場のマッチングがより大切であると思われます。

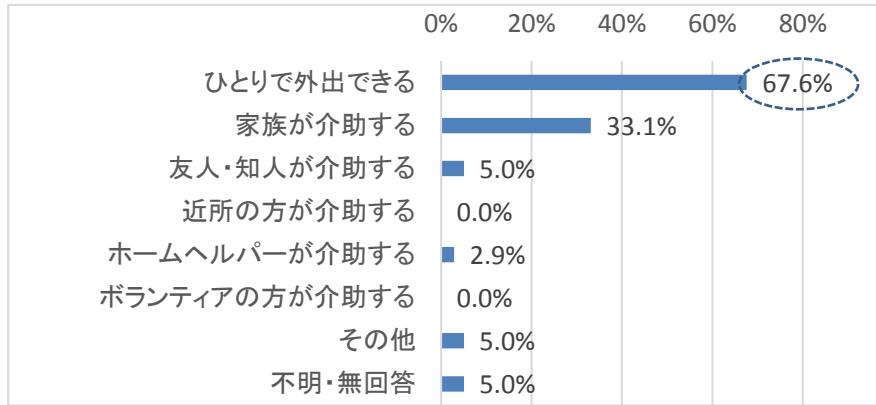
外出について

32 どのようなことで外出しますか。(複数回答) 【%】



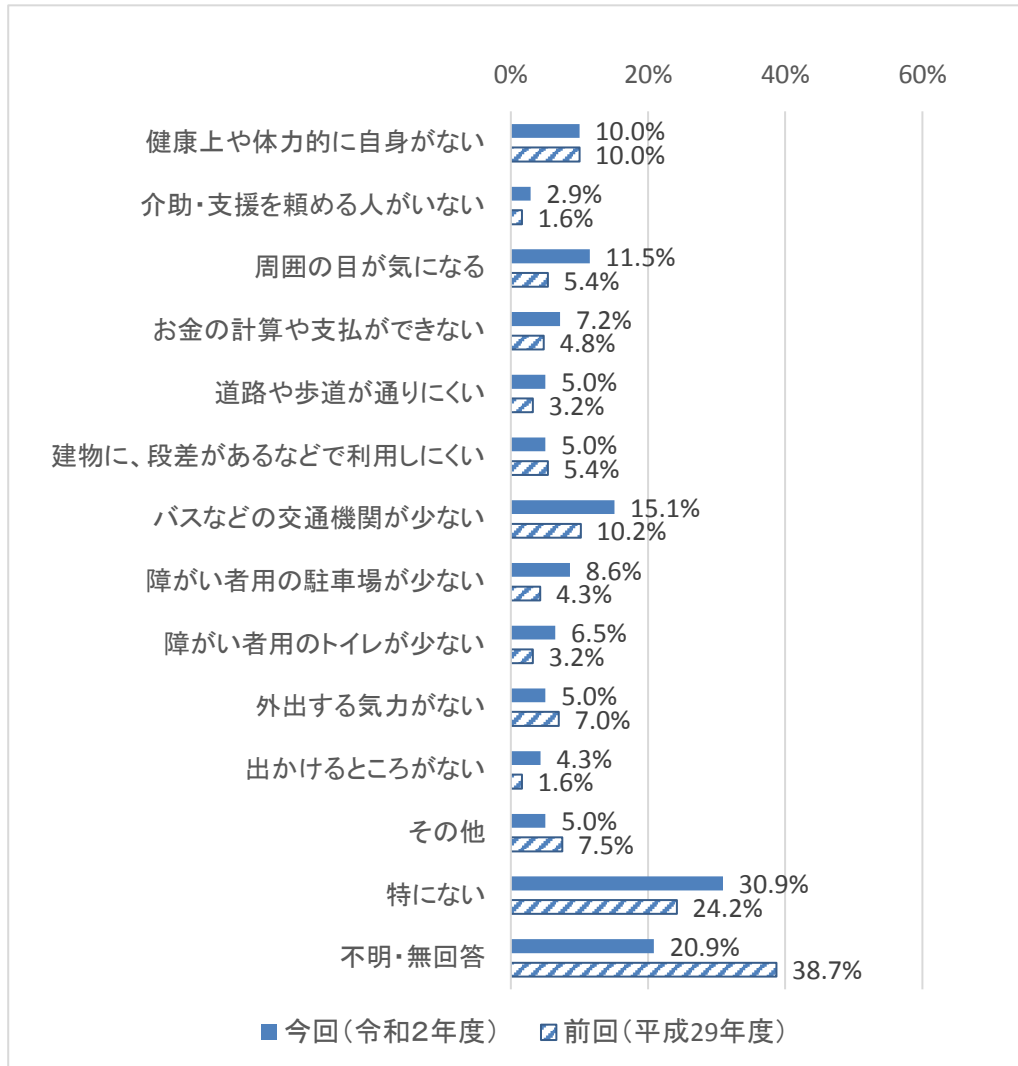
その他：外食等。

3.3 外出するときは誰かの介助を必要としますか。(複数回答)【%】



外出の理由としては「買い物」「病院などの受診・リハビリ」が多く、外出時の介助については「ひとり外出できる」に次いで「家族が介助する」の割合が高くなっています。前回調査と同様の傾向です。

3.4 外出できない理由、または外出するときに困ることは何ですか。(複数回答)【%】

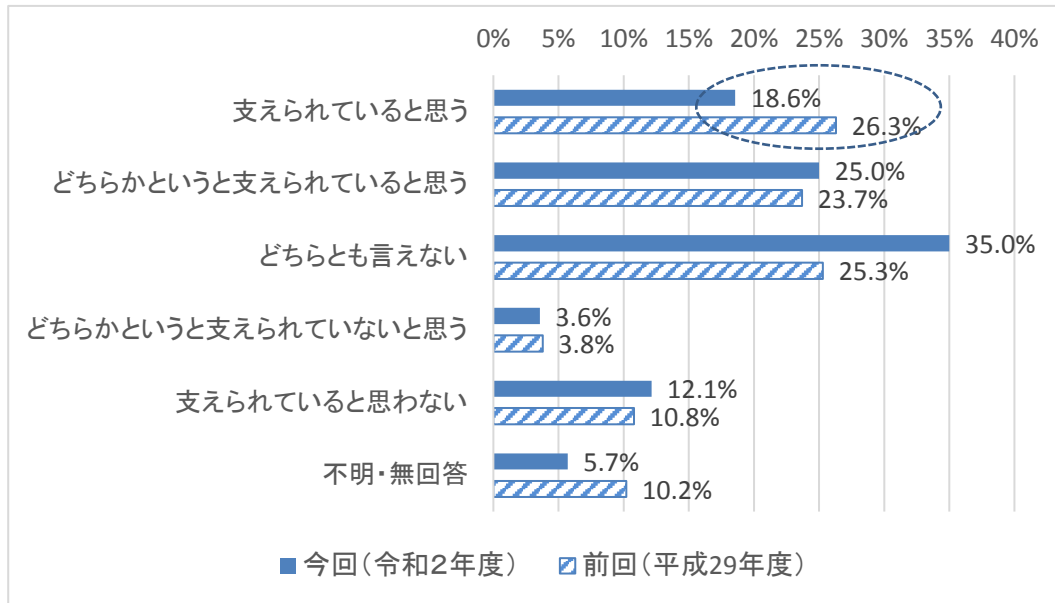


その他：車も免許もあるが、運転を控えているため。

目立って割合の高い項目はありませんが、個々の障がいや事情に応じて様々な困りごとがあるようです。

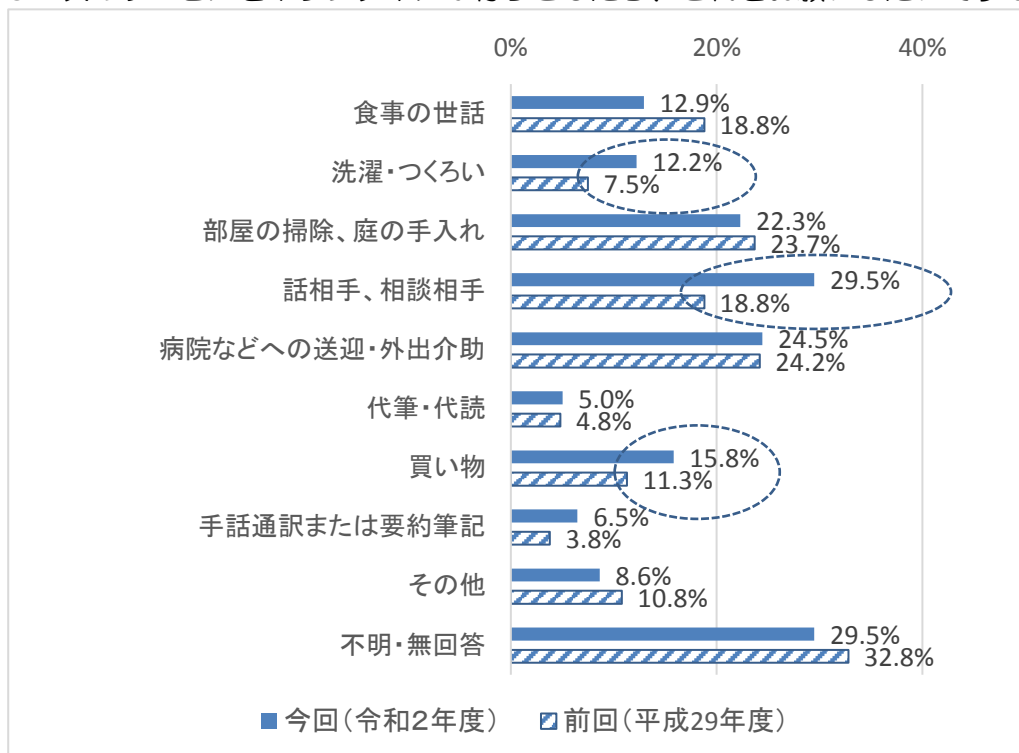
地域生活と防災について

35 今、地域の人に支えられていると思いますか。 【%】



前回調査と比較して、「支えられていると思う」の割合が減少しています。「どちらとも言えない」の割合が高くなっています。

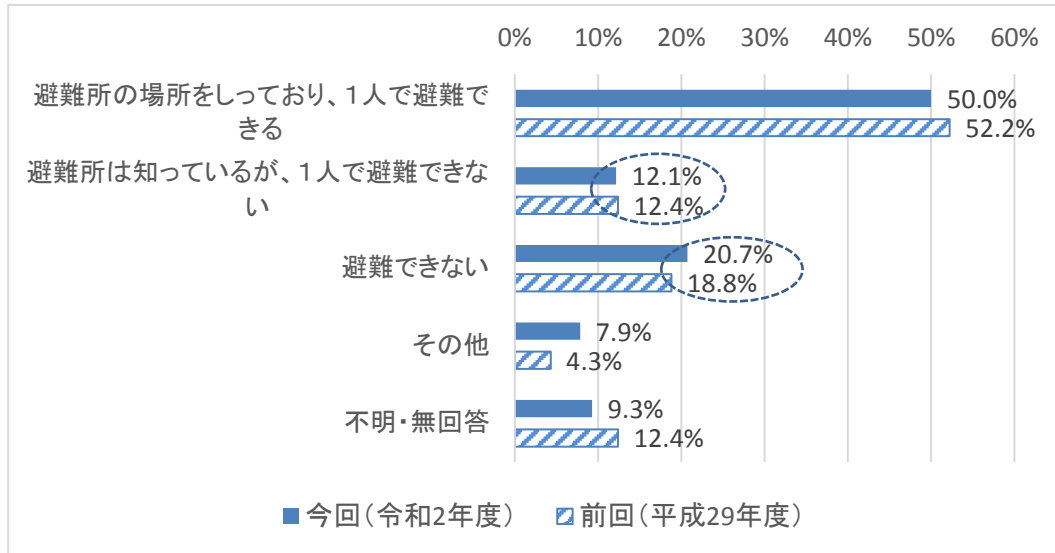
36 次のサービスをボランティアが行うとしたら、どれをお願いしたいですか。(複数回答) 【%】



その他：除雪。

前回同様、家事支援、通院支援は高い傾向にあります。前回と比べて「話し相手、相談相手」のニーズが高くなっています。

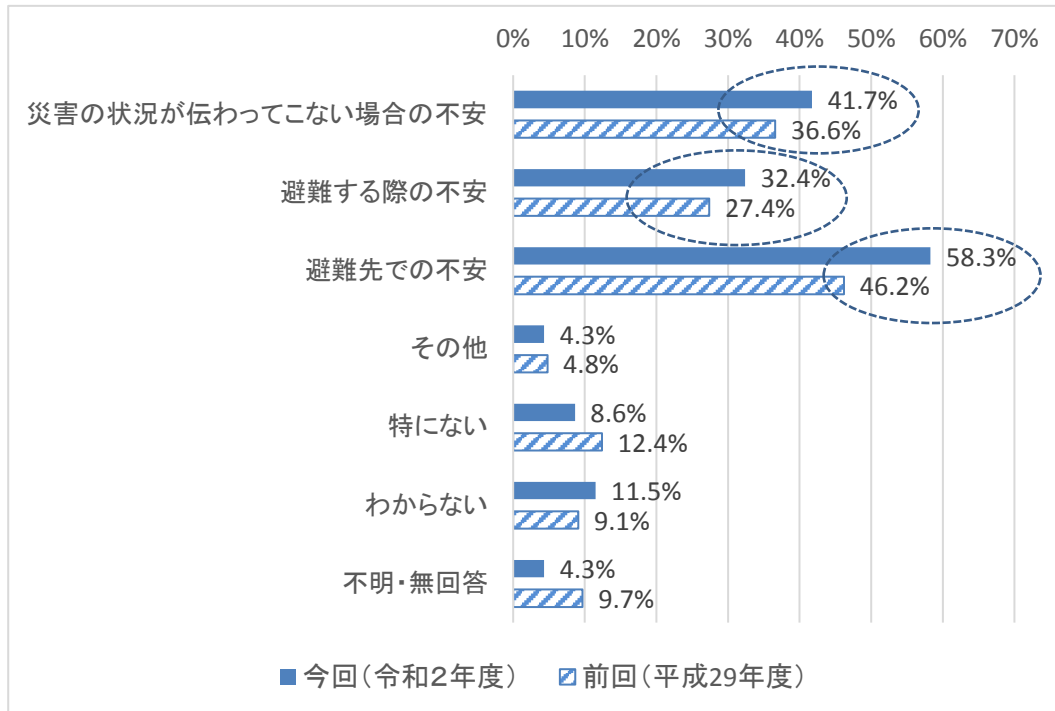
37 災害が起こった時、一人で避難できますか。 【%】



その他：ひとりでひなんできるが、ひなんしていいのかわからない。

「避難所は知っているが、1人で避難できない」と「避難できない」を合わせると、約3割の方が避難が難しいと回答しています。避難困難者の『個別支援計画』の作成が重要と考えられます。

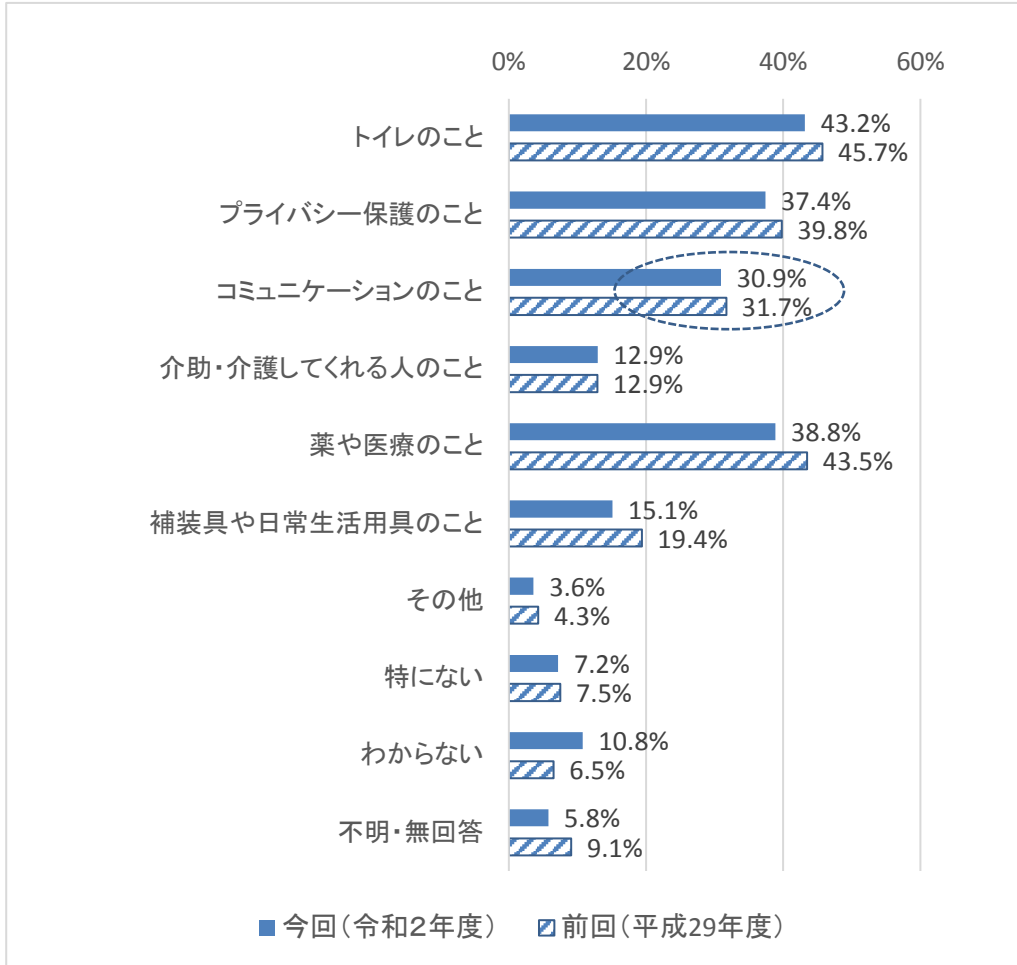
38 災害が起こった時の不安は何ですか。 【%】



その他：いつも服用している薬が足りるか。

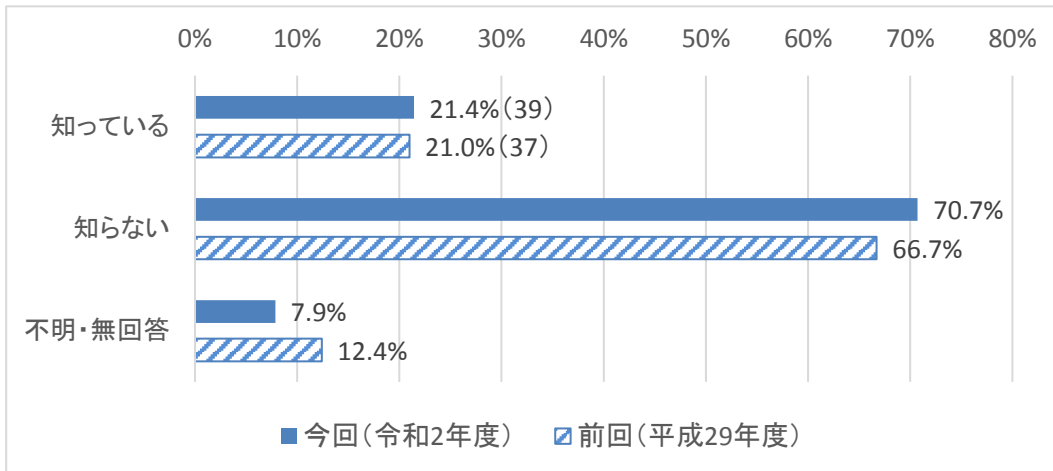
前回調査と傾向に違いはなく、「避難先での不安」「災害の状況が伝わってこない場合の不安」の割合が高くなっています。また、「避難先での不安」の割合も高くなっております。

39 避難所などで具体的に困ると思われることは何ですか。(複数回答) 【%】

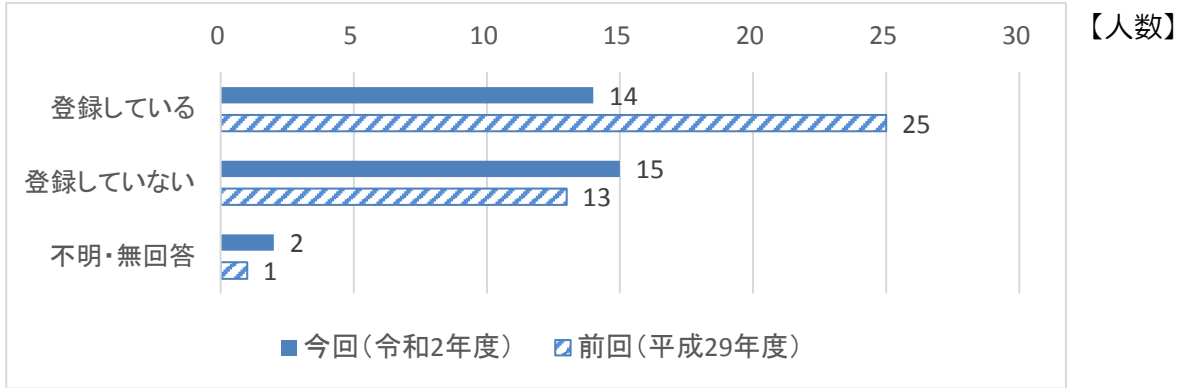


「トイレのこと」「薬や医療のこと」「コミュニケーションのこと」が多いのは前回同様です。

40 災害時要援護者台帳登録について知っていますか。【% (人数)】



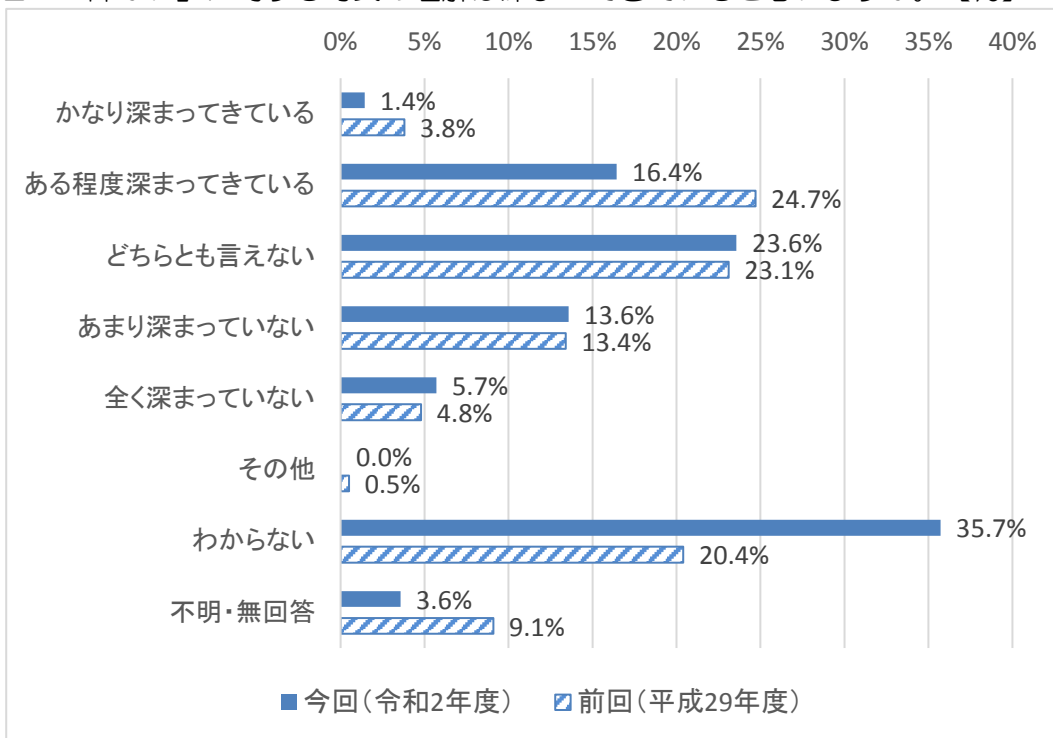
4.1 災害時要援護者台帳登録していますか。(40で「知っている」と回答した方のみ)



災害時要援護者台帳登録について、認知度・登録者数ともにあまり増えていません。今年度、災害時要援護者台帳登録情報更新のため、登録者を対象とした全戸訪問を行っており、芽室町相談支援事業所とも連携して、要援護者台帳の更新に努めています。

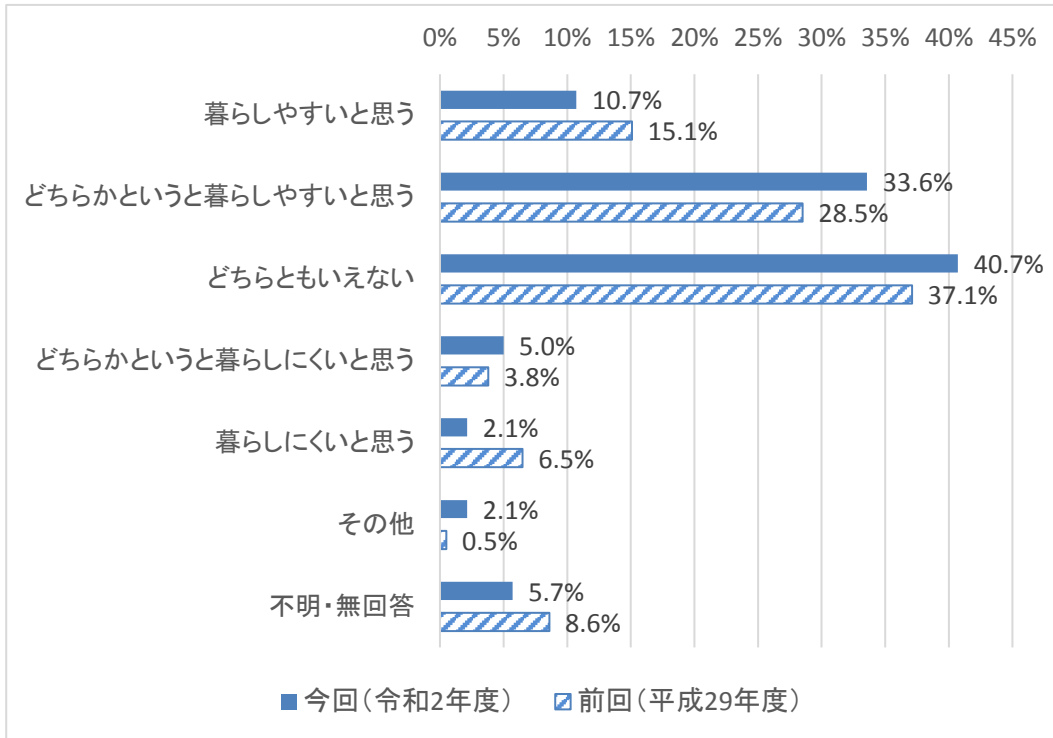
障がいへの理解について

4.2 「障がい」に対する市民の理解は深まってきていると思いますか。【%】



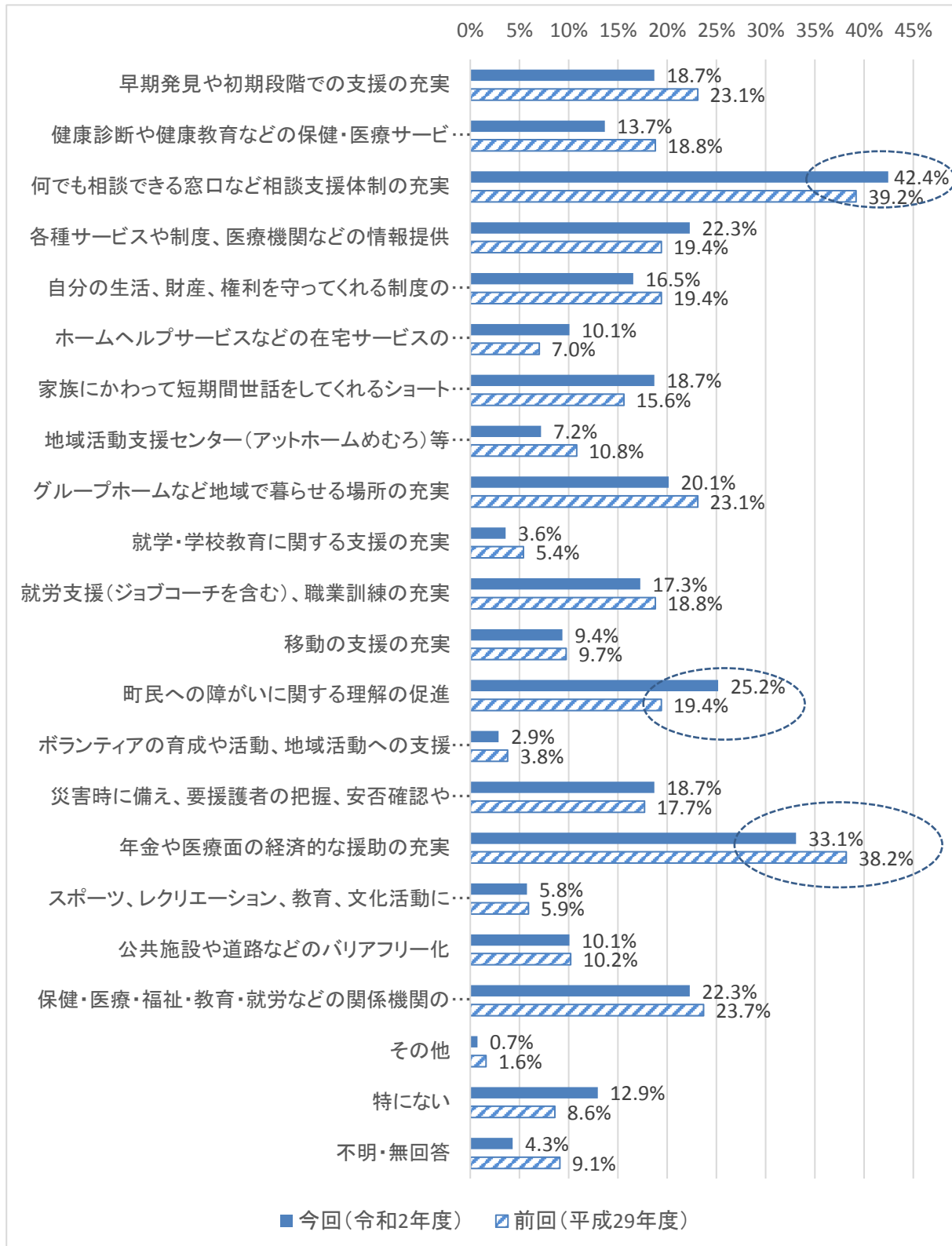
前回調査と比べて「わからない」の割合が高くなっています。普及・啓発を積極的に行う必要があると考えます。

4.3 芽室町が障がいのある方にとって暮らしやすいまちだと思いますか【%】



前回調査と比較し、「どちらかという暮らしやすいと思う」の割合が増えています。
「どちらともいえない」と答えた割合も同じく増えています。

4.4 障がいのある方に対する支援として、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答） 【%】



その他：新型コロナウイルスによる新しい生活様式を踏まえた生活様式。

「何でも相談できる窓口など相談支援体制の充実」「年金や医療面の経済的な援助の充実」の割合が最も高くなっています。前回と比べて「町民への障がいに関する理解の促進」の割合が高くなっており、42の質問の回答でも「わからない」が多かったことから、普及啓発が今後の課題であると考えます。

Ⅲ 巻末資料（自由記述等）

45 障がい福祉について、あなたがお考えになっていることがありましたら、お書きください。

23 福祉センター入口の小さな段差は早急に何とかすべきです。高齢者、身障者が利用する事がわかっているのにあの半端な段差は危険すぎます。私は帯広に住んで3年ほどになります。これまでの私宛の郵便物は全て帯広の住所に届いていたのですが、このアンケートに限り芽室の住所に届きました。重要書類がそのようなことになっては困ります。確認をお願いします。

41 ・就職以外の仕事の形。
 ・自立orグループホームorシェアハウス
 ・障がい福祉の就職では畑と畜産とか、体を動かすものが多い印象があります。体調などでそういう仕事ができない人のためにデスクワークやオーダーを受けて物を作る仕事ができる場があるといいなと思います。
 ・あんまり関係ないけどじゃがバスの運行範囲が増えるといいなと思います。あれは値段が決まっているので計算が苦手な人でも乗りやすいと思うので。
 ・大人の発達障害が発覚しやすいようにある程度の年齢で検査が受けれるといいかもしれない。

44 特に困っていません。このように時々アンケート調査が来るとちょっと安心します。

46 人生を歩むための仕事と収入を。仕組みと見守りを。

50 ありがとう。しょうがっこうまでしかいってなくて、かんじがかけなくてごめんなさい。

55 私は、町から離れた所に住んでいます。頭からの障がいです。これは町内の事のアンケートのようですが、私はどうしても帯広市厚生に行きそこでしか出してもらえない薬も飲んでいきます。もしどおしても避難なら帯広までです。手帳を作るために今は申請などは親に頼ることが多いです。自分では何もできない時は、どうしましょう？私はまだ車いすは使っていませんが、確かにスーパーに行くとき車いす障がい者の方の車を止める場所があります。父親がここでいいんだと車を置きますが、普通に降りれるのに失礼かな？と思います。どおしたらよいですかね？何かバックとかにぶら下げるとか難病の人間とかの証拠どうにかなりませんか？

57 聴覚6級と言う事で、世の人々がイメージする障がい者とは違うと感じる。実際、介助等は特に必要としていないが、補装具購入に補助があるのは、ありがたかった。

59 ①担当者の方は介護保険制度、障がい福祉サービスなど聞いたことがあっても実情を理解しているのでしょうか？アンケート内で疑問に思ったので
 ②今、老健施設のりらくに行ってますが、もっと年代別の施設はできないのでしょうか。
 ③午前の部とか時間別のサービスをすることを考えてもらいたい。①ですが担当は知っていても当事者がわからないと18番の回答はできないのですかね。

60 高齢者が増加（少子化）重要性が高いものとなります。お金の必要なサービスも多く大変だと思いますが、福祉サービスの良い街であってほしいです。

64 この街に限ったことでなく全国的に言えることですが、近年身体障がい、知的障がいといった方々に対する理解が広まってきているとは逆に精神障がい、発達の遅れなどに対する理解や支援は極めて少なく、当事者都市はまともに生活していく手段もなく、就労でも中々採用してもらえない場所もなく本当に困っているので少しでも理解が深まってくれるように願っています。

- 70 運賃を割り引きにしてほしい。
- 76 窓口（あいあい）の〇〇さんという女性の対応について不十分であったため、今後対応をしてもらいたくないという事を伝えたことがありました。理由は、書類の不備、対応の不確かさなどであったためです。もう少し窓口の対応を均等に確かなもの、知識、誠実さをもっと意識していただきたいと思います。常日頃あいあいを利用させてもらっている一人のものとしての意見でした。いつもお世話になっております。職員の方々ありがとうございます。
- 77 経験上一番苦労したのが小・中学校の時でした。担任の先生が変わるたびに我が子の障がいについて一から説明しなくてはならないストレス、ほかの生徒に理解されないストレス、医療・教育・福祉が常に連携していて担当が変わっても情報が伝わるようになってくれたらとずーっと思っていました。障がいを持った子供がいる家庭は心因的ストレスがあるうえ福祉サービスを受給するためとはいえ常に書類の提出を求められ親が元気なうちは良いけれど、、、。障がいは生まれ持ったばかりではなく事故や病気等で後天的に負ってしまう場合もあります。世の中には多様多様な人がいる、LGBTの件も含め、教育の現場で小さいときから学んでくれたらいいなと思っています。心もバリアフリーにと思っています。
- 79 サービスの体制の強化・充実というのは、行政内部のことであって、事務所や窓口で座って、申請や相談に来る人を待っているだけで楽だとは思いますが、多くの障がい者の方がその申請の大変さや移動の辛さでサービスの利用を断念せざるを得ない状態です。申請主義といって片付ければ、町の出費は少なく済みますが、今後、子供、高齢者、障がい者、福祉、教育などの文言は一切使わないようにしてください。手島さんが町長になりよかったとは思いますが、議員の話も聞くようにしてください。町の職員であるならば誇りと正義をもって、直接、生活困窮者のもとへ出向くようにして下さい。アンケートの内容もちょっと不思議な部分もありましたが、もう少し対象者よりな、質問項目を考える余地があると思います。第6期芽室町障がい者福祉計画が稚拙なものにならないように思っています。
- 85 アンケート結果をきちんと生かしてほしい。
- 94 福祉的就労の場所を芽室町で増設してほしい（A・B問わず）。
- 95 先日、孫とプールに行ったら小学3、4年くらいの女の子4人（そのうち1人が足が悪くて車いすだったのですが）付き添いの女の子が一人ついて3時間くらいプールでボール遊びとかして帰っていったのですが、その時足の悪い女の子の他の子が世話をして一緒に遊んでいるのを見てそれがしてやっていると自然でやれることをして車いすの女の子もいじけた風なく快活で皆となじんでいて付き添いの女の子も一所懸命でそれでいて気配りもあり楽しんでやっていると見えたのがとても感じがよかったです。こんな風にみんながそれぞれできることを持ち寄って嫌味なくすがすがしく生きていけたら世の中は良くなっていくと思います。孫も何かを感じ取ったらしく彼女らの楽しんでいる様子をじっと見ていました。
- 97 差別的な目線で見ないような一般の人と同じ立場で生活を送れるような社会なればいいなと思います。
- 100 同じ病気でも個人差があり家族や他人から働きもしないでと言われたり買い物に行けばいつまでも出歩いているといわれます。悲しいです。
- 104 身体や精神などの障がいも向き合うことは大切ですが、性別やモノを愛する少数者の支援や理解がこれからの課題だと思われます。LGBTやモノが好きと言っている人たちへの支援に力を入れてください。

- 111 歩道の整備を進めてほしい。狭いところ、段差が多いところ、車いすの利用ができない歩道が何か所かあるようです。今は、車いすの利用はしていませんが、将来、利用した際にどこにでも行けるように歩道の整備充実を希望します。
- 126 就労継続支援事業所に入所してから3年経ちますが全然就労事業所のことを分かっていないことが多くほかの事業所の事を色々知りたいと思っています。昨年の11月からA型からB型に移行されたりこれからのことを考え、今年の11月末で事業所を退所しようと考えています。その後、色々な事業所を見学したりしたいと思っています。その際、相談にのっていただけると助かります。
- 127 コロナが流行し全員がマスクをしています。聴覚障害者は、口元が見えないので普段補聴器をして聞こえる人も聞き取りにくくなっているのが現状です。まずは芽室町役場から聴覚障がい者と分かる人が来た時にはマスクを外す、無理なら筆談するなどの方法をとっていただけると嬉しいです。何度も役場の手続きに行っても毎回言わないと対応してもらえないのは少し悲しいです。地域の方への協力も必要ですがまずは役場の方から意識を高めてくれると嬉しいです。
- 130 税金が重く生活に苦労している。減免などできないものか。
- 133 昔より障がい福祉について理解やサービスの充実などよくなっているとは思いますが。が日本はまだまだ障がいのある人に差別や医療費などの負担が大きく大変です。今後さらに良くなることを願います。
- 139 障がい者が普通に暮らせる町づくりを目指すこととされていると思いますが、実現するには一般の住民への理解をはじめとして、意識の変容が大胆に必要なかと思います。この先はどんな世界になっていくか見えない状況になってしまったので、先に書きましたが障がい者が普通に暮らせる「新しい生活様式」を実践した生活様式はハードルが高くなってしまったと思うので、一層の取り組みが必要になってしまったのではないかと思います。人口は減っていくので、いわゆる「共生社会」の実現に向けて、ぜひ良い事業を実施してください。